全工資料 2019－８

令和元年度
海外研修事業報告書

第１９回ベトナム社会主義共和国派遣

ベトナム日本人材協力センター（VJCC）にて

Hanoi,Ho Chi Minh,Socialist Republic of Vietnam

研修期間：令和元年７月２０日 ～ ７月２７日

協　　力：Hanoi Industrial Vocational College

Vietnam-Japan Human Resources Cooperation Center

公益社団法人　全国工業高等学校長協会

国際化事業推進委員会

目　　次

１．はじめに ・・ ２

２．第１９回高校生海外研修実施要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３

３．海外研修日程表 ・・・ ５

４．海外研修　結団式・事前研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６

５．海外研修での挨拶 ・・ ７

６．海外研修の概要 ・・・ １０

７．参加生徒の報告 ・・・ ２７

８．アンケート結果 ・・・ ６９

９．結びに ・・ ７４

１．はじめに

国際化事業推進委員会委員長　早　川　信　一
（東京都立科学技術高等学校長）

公益社団法人全国工業高等学校長協会主催「第 19 回高校生海外研修」が 7 月 20 日（土）～27 日（土）の 8 日間の日程で実施されました。第 19 回を迎える今年度の高校生海外研修は、昨年と同様にベトナム社会主義共和国(以下、ベトナム)で実施され、今回で 4 回目になります。

近年のベトナムは大変大きな経済発展を遂げている国であり、日本を訪れているベトナムの方々の数も大幅に増加しています。日本との関わりも大変深いものがあり、今後日本との経済協力もますます発展していくことが予想されます。そのような意味においては、工業系専門高校生の海外研修先としてベトナムが選ばれたことは、大きな意味を持つと考えています。

さて、グローバル化が進む現代において、グローバル人材の育成は工業系専門高校にとっても大きな課題となっています。こうした状況の中で国際理解教育、海外学校間交流等は学校教育活動の大きな柱の一つとなっています。そして、各教科での国際教育活動や特別活動などでの実践的活動は、生徒の育成に大変大きな役割を果たしています。

全国工業高等学校長協会では、平成 13 年度から国際感覚を身につける必要性を鑑み、「高校生海外研修」を毎年の事業の一環として実施してきました。今回、なぜ研修先がベトナムなのか？という質問があるとすれば、ベトナムという国を知っていただき、知れば知るほどその理由に納得し、理解していただけるはずです。

全国から集まった生徒たちの中には、この研修への参加に迷った人もいるでしょう。しかし、その勇気と決断は将来ベトナムをはじめ、諸外国と友好な関係を築くための経験になるとともに、この時点で既に皆さんは国際社会に貢献できる資質と志を備えていると思っています。今後も様々な事柄に挑戦し、未来の日本を切り開いていく人材となってください。

グローバル社会を生きる生徒の皆さんについて考えてみますと、例えば、スマートフォンなどの機器を容易に操る皆さんは、いつでも世界と繋がることができます。そして、各国や地域の課題なども地球市民の一人として、ひとつの問題としてとらえることができるのです。

海外研修のために全国から集まった生徒の皆さんは、ぜひ今回のこの一瞬を一時的な経験としてとらえるのではなく、ともに研修期間を過ごした生徒同士の交流についても、その輪を全国に広げてください。そして、高校生活の思い出としてだけではなく、何よりも自分の将来に向けた１ページとして加えてください。生徒の皆さんが、今回の時間をしっかりと振り返ることで、国を越えたグローバル人材として成長してくれることを期待しています。

本報告書は、研修に参加した生徒たちが現地で経験し、多くを学び、感じ取ったことを素直な気持ちで表現してくれています。この報告書を目にされたすべての方々に、生徒たちがこの研修で得た何かを感じ取っていただければ幸いです。

最後に、本研修を実施するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。国際化事業推進委員会は、今後も「高校生海外研修」をはじめ、国際化事業の推進に努めてまいります。

２．第１９回高校生海外研修実施要項

① 実施要項

１　目　的

国際化時代を迎え、工業高校においては国際感覚を身に付ける教育が求められている。この様な社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として本研修を実施する。

２　期　日

令和元年 7 月 20 日（土）～7 月 27 日（土）の 8 日間

３　研修地

ベトナム社会主義共和国（ハノイ市、ホーチミン市、等）

４　研修内容

現地学生との交流、学校見学、企業見学、文化技術交流等

５　宿泊先

ホテル（ホーチミン市内、ハノイ市内、ハロン湾近郊）

６　経　費

（１）自己負担

① 参加費　３万円

② 自宅と成田空港間の交通費、パスポート申請料、燃油サーチャージ、空港使用料、任意の海外保険等は、自己負担とする。

（２）補　　助

① 国際線の航空運賃及び現地の交通費、宿泊費、食費等は、全工協会が補助する。

② 遠方からの参加者には成田空港までの往路に関わる交通費の一部を全工協会が補助する。

７　参加条件

次の（１）～（３）をすべて満たす生徒

（１）全工協会の会員校に所属し、学業・人物ともに優秀で、所属校長と地区代表校長の推薦する生徒

（２）他の海外研修等に参加した経験のない生徒（修学旅行を除く）

（３）国際的な感覚を身に付け、今後の学校生活に意欲をもって取り組める生徒

８　参加人員

２５名（生徒２２名、引率３名）

＜９地区ブロックの生徒推薦枠＞

北海道１、東北３、関東４、北信越２、東海３、近畿３、中国２、四国１、九州３

引率は全工協会から委嘱する。

９　推薦手順

参加希望者は「海外研修参加申込書」と「参加理由書」（A4 用紙 800 字程度）を所属校長へ提出する。

所属校長は地区代表校長の推薦を得て書類を全工協会へ提出する。

※「海外研修参加申込書」と「参加理由書」の様式は本協会ＨＰからダウンロードする。

10　応募締切

令和元年 5 月 17 日（金）厳守（消印有効）

＜応募書類提出先・問い合わせ先＞

公益社団法人全国工業高等学校長協会　事務局次長　鈴木賢二

〒102－0072　　東京都千代田区飯田橋　2-8-1

TEL　03－3261－1500　　suzuki@zenkoukyo.or.jp

② 教員が参加する場合の実施要項

生徒海外研修実施要項の項目「１～６、10」を準用し、「７～９」は、次のとおりとする。

７　応募条件

会員校の教員（校長の推薦する者）

８　募集人員

若干名（教員枠は、参加生徒数が定員に満たない場合に、定員（22 名）から生徒数を引いた数とする。ただし、生徒の定員が満たされた場合は、教員枠は「０」とする。）

９　応募手順

（１）参加希望者は、「海外研修参加申込書」並びに「参加理由書」（生徒の様式をA4 用紙 800 字程度）を作成し、所属校長を通して全工協会へ提出する。

（２）書類の様式は、本協会ＨＰよりダウンロードする。保護者氏名・学年等の不必要な箇所は空欄とし、「生徒氏名」は「教員氏名」とする。

（３）校長から推薦された候補者を国際化事業推進委員会で選考して、所属校長へ通知する。

※その他

（１）現地では引率者の指示に従い、生徒と同じ日程で行動する。

（２）帰国後、各自報告書(全工協会指定の形式)を提出する。

＜応募書類提出先・問い合わせ先＞

公益社団法人全国工業高等学校長協会　事務局次長　鈴木賢二

〒102－0072　　東京都千代田区飯田橋　2-8-1

TEL　03－3261－1500　　suzuki@zenkoukyo.or.jp

３．海外研修日程表

月日	曜日	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	行動予定・宿泊	食事
7/20	土	成田空港 レストハウス	15：00 15：30 17：45	各自	前日集合 結団式・事前研修 〈レストハウス泊〉	 夕食
7/21	日	レストハウス発 成田空港発 ホーチミン着 ホテル着	07：00 09：30 13：15 16：00	専用車 VN301	空港第１ターミナルへ移動 出国手続き 入国手続き、市内見学（サイゴン大聖堂、統一会堂、戦争証跡博物館等） 〈ホーチミン・ホテル泊〉	朝食 機内食 夕食
7/22	月	ホーチミン市 ホテル着	午前 午後	専用車	企業視察（日系企業（PLUS 社）） 企業視察（ベトナム系企業（DAI LA 社）） 〈ホーチミン・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/23	火	ホーチミン市 ホーチミン発 ハノイ着 ホテル着	午前 午後 17：10 19：20	専用車 VN262	VJCC（ベトナム日本人材協力センター）訪問 学生交流、歴史博物館見学 ハノイへ移動 〈ハノイ・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/24	水	ハノイ市 ホテル着	午前 午後 夕刻	専用車	ハノイ工業職業訓練短期大学校の見学 ベトナム学生との交流（Ｂ＆Ｓプログラム） 〈ハノイ・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/25	木	ハノイ市 ホテル着	午前 午後 夕刻	専用車	市内見学（ホー・チ・ミン廟、文廟、ホアンキエム湖等） 異文化交流（バッチャン焼き絵付体験） 〈ハノイ・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/26	金	ハノイ近郊 ハロン湾 ハノイ空港着	午前 午後 21：00	専用車	ハロン湾へ移動 世界遺産見学（ハロン湾クルーズ） 出国手続き	朝食 昼食 夕食
7/27	土	ハノイ発 成田空港着	00：20 07：00 08：00	VN310	〈機中泊〉 入国手続き 事務連絡、解散	機内食

４．海外研修　結団式・事前研修

日　時：令和元年７月２０日（土）　１５：３０～１７：３０
会　場：成田エアポートレストハウス　ブルースカイの間
結団式：司会（全国工業高等学校長協会事務局長）　石井末勝

１　開式の言葉　国際化事業推進委員（埼玉県立三郷工業技術高等学校長）　山本康義
２　挨　　拶　①全国工業高等学校長協会　理事長（東京都立六郷工科高等学校長）　佐々木哲
②団長・国際化事業推進委員長（東京都立科学技術高等学校長）　早川信一
３　引率者紹介　①団長・国際化事業推進委員長（東京都立科学技術高等学校長）　早川信一
②引率（東京都立多摩工業高等学校　教諭）　小原　豪
引率（東京都立工芸高等学校　教諭）　矢澤正己
③添乗員（東日観光株式会社）　岩原学美
４　出席者紹介
５　参加生徒自己紹介
６　生 徒 宣 誓　山梨県立峡南高等学校（電子機械科　３年）　生徒
７　閉式の言葉　国際化事業推進委員（千葉県立清水高等学校長）　土屋徳郎
８　写 真 撮 影

＜事 前 研 修＞　１　日程及びベトナムの状況説明
２　①海外研修報告書の提出　②海外研修日誌　③海外研修アンケート
３　①班長の選出　②現地学生との交流

＜出　席　者＞　参加生徒（下表参照）及び保護者
国際化事業推進委員会：早川信一（引率）、山本康義、土屋徳郎
引率者：小原　豪、矢澤正己　理事長：佐々木哲
事務局：石井末勝事務局長、鈴木賢二事務局次長、渡邉　隆事務局次長
旅行業者：猶江健博、岩原学美（東日観光株式会社）

参加生徒２２名、教員０名　合計２２名

都道府県	学校名	都道府県	学校名
北海道	札幌工業高等学校	東海	岐阜工業高等学校
東北	弘前工業高等学校	東海	浜松工業高等学校
東北	秋田工業高等学校	近畿	京都工学院高等学校
東北	宮城県工業高等学校	近畿	堺市立堺高等学校
関東	平塚工科高等学校	近畿	神戸市立科学技術高校
関東	峡南高等学校	中国	萩商工高等学校
関東	京葉工業高等学校	中国	倉敷工業高等学校
関東	科学技術高等学校	四国	松山聖陵高等学校
北信越	岡谷工業高等学校	九州	加治木工業高等学校
北信越	坂井高等学校	九州	鶴崎工業高等学校
東海	半田工業高等学校	九州	佐土原高等学校

５．海外研修での挨拶

１．結団式における生徒宣誓

山梨県立峡南高等学校
電子機械科　３年　生徒

全国工業高等学校長協会主催「第 19 回高校生海外研修」の参加にあたり、参加者を代表して宣誓します。

私たち２２名は、日本の工業高校生の代表として、この海外研修に参加します。ベトナムの歴史や文化、技術に触れ、その発展の様子を学びたいと思います。そして、日本の工業の在り方や課題について考えたいと思います。

研修中は「積極的に行動する気持ち」を忘れずに取り組みます。積極的に行動することで、より多くの経験が出来ると思います。研修で得た多くの経験は学校の友人にも還元します。この研修が多くの人にとって良い機会となり、将来の日本にとって良い影響を与えることを信じています。

この海外研修を企画してくださった方々、学校の先生方、両親に対する感謝の気持ちを胸に、真摯に研修に努めることをここに誓います。

２．結団式における団長挨拶

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

皆さんこんにちは。この度、第 19 回高校生海外研修の団長を仰せつかりました、東京都立科学技術高等学校長の早川信一と申します。どうぞよろしくお願いします。

何かここに立つと参加生徒の皆さんの緊張感がひしひしと伝わってきます。第 19 回の高校生海外研修はベトナム社会主義共和国での研修となり、4 回目になります。各学校でも国際化には様々な取組がなされていると思いますが、全工協が工業教育の活性化を考えた海外研修の取組としては 19 回を迎えます。北は北海道、南は九州までの工業系高校から選抜された生徒さん 22 名が集まりました。皆さんは全国の地区を代表する優秀な生徒さんたちです。この研修を大いに活かし、国際化の進む社会を牽引する人材に成長できるよう研修に励んでほしいと願っています。皆さん、少し緊張をほぐしましょう。このまま緊張していくと途中で疲れてしまいます。ただこのような良い緊張感をもって、安全に、そして楽しく研修に臨んでください。それでは、研修をはじめましょう。どうぞよろしくお願いします。

最後に、ただいまご挨拶いただきました全工協会の佐々木哲理事長をはじめ、国際化事業推進委員会の皆様、本研修の計画段階からお世話になりました鈴木事務局次長をはじめとする事務局の皆様、東日観光の皆様にお礼申し上げます。

３．日系企業PLUS社訪問時における団長挨拶

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

本日はお忙しい中を高校生海外研修の工場見学をお引き受けいただきましてありがとうございます。全国工業高等学校長協会高校生海外研修団長の早川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。日本でもベトナムから多くの方が働きに来られている現状があります。そこで今回の研修では、ベトナムでの日系企業の現状等を学ばせていただければと考えています。日本でも文具類で大変お世話になっている PLUS 社さんの工場が、ベトナムの日系企業として、どのように経営・運営されているのかを知ることは、将来就職を控えた生徒に取って大いに参考になるものと思っています。

今回この研修に参加している高校生は、北は北海道から南は九州までの各ブロックの代表生徒です。実際に工場を見学できる貴重な機会です、大変楽しみにしております、どうぞよろしくお願いいたします。

４．ダイラ機械製造貿易有限公司（DAI LA MECHANICAL MANUFACTURING TRADING Co.,Ltd.）訪問時における団長挨拶

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

本日はお忙しい中を高校生海外研修の工場見学をお引き受けいただきましてありがとうございます。全国工業高等学校長協会高校生海外研修団長の早川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

午前中に、日系企業さんを見学させていただきました。日本でもベトナムから多くの方が働きに来られている現状がありますし、南ベトナムだけでも日系企業が 1,000 社以上あると聞いています。そんな中で、地元ベトナム企業さんの工場見学をさせていただき、現状等を学べることは大変貴重な機会であると感謝しております。なかなかこのような機会はありませんので、生徒の将来に向けても大いに参考になると思っています。

今回この研修に参加している高校生は、北は北海道から南は九州までの各ブロックの代表生徒です。時間を割いていただき申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

５．ベトナム日本人材協力センター(VJCC)訪問時における団長挨拶

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

皆さん、おはようございます。全国工業高等学校長協会高校生海外研修団長の早川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中を多くの学生さんたちに御参加いただきましてありがとうございます。VJCC での交流は、日本語を学習している学生さんと交流できる大変楽しい時間と聞いています。今回この研修に参加している高校生は、北は北海道から南は九州までの各ブロックの代表生徒です。御参加していただいた学生の皆さまと日本、ベトナム両国の文化などについて語り合い、いくつかのベトナムの文化について教えていただける時間を共に過ごせることを楽しみにしております、どうぞよろしくお願いいたします。

６．ハノイ工業職業訓練短期大学(HIVC)　訪問時における団長挨拶

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

皆さん、おはようございます。全国工業高等学校長協会高校生海外研修団長の早川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。このように、ボランティアの学生の皆さん方をはじめ、多くの関係の先生方に歓迎をしていただき、また、代表の学生さんによる歌やダンスの披露など全く思いもよらないことでした。本当にありがとうございます。大変感激しております。ハノイ工業職業訓練短期大学の学生さんは、アセアン諸国が集まる技術系大会でも優秀な成績を上げており、素晴らしい学校であると伺っております。そのような学校を見学できることを大変うれしく思っております。今回この研修に参加している高校生は、北は北海道から南は九州までの各ブロックにある工業系高校で学ぶ都道府県代表の高校生です。夏休みの中、たくさんの学生さんに参加していただき本当にありがとうございます。ベトナムの工業系短期大学を見学できることを楽しみにしておりました。どうぞよろしく願いいたします。

７．解団式挨拶

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

① ハノイ空港に向かうバスの中にて

皆さん､これからハノイの空港に入ります。今回のベトナム研修はどうでしたか？私は団長として皆さんを少し離れたところから見ていましたが、さすがは全国から推薦された代表の生徒たちだなと、常に感じていました。当たり前のことはしっかりとでき、けじめをつけて学習し、仲間を気遣える。集合もほぼ5分前集合でした。簡単なようですが素晴らしいことです。海外研修に参加するまでにはいろいろと迷いもあったかもしれませんが、大切な経験ができたと思います。この経験を活かし、さらに積極的に世界へ飛び出し活躍してくれることを期待しています。

皆さんにはこれまで「地元に戻ったら他の生徒にもこの経験を伝えてください」と何度かいわれてきたと思います。それはもちろん大切なことですが、私はこの経験を何よりも皆さん自身のために必ず活かしてほしい、と思っています。ただ楽しかっただけではないはずです。今後、皆さんは国際化や国際社会を避けたり、離れて生きていくことはできないでしょう。きっと今日のこの空気感がどこかで生きるときがあります。東京方面に就職を希望する人、進学を希望する人は私たち3人の教員に相談してくださいね。必ず役に立ちます。それでは、元気に日本へ帰りましょう。お疲れさまでした。ありがとうございました。

②成田空港にて

皆さん､無事に成田空港に帰ってきました。とりあえずベトナム研修が終了します。あらためて解散のあいさつはしません。バスの中でも話をしましたように、皆さんのこれからの活躍に期待しています。ここで団は解散しますが、家に着くまでは研修の時間です。台風の影響もあるようです。家に着くまで気を緩めずに気を付けて帰宅してください。

それでは19団をひとまず解散します｡皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

統一会堂

ハノイ大教会

一柱寺

６．海外研修の概要

ベトナム社会主義共和国研修　概要

第１９回海外研修　団長　早川　信一
（東京都立科学技術高等学校長）

１．はじめに

研修参加生徒は、男子生徒 11 名、女子生徒 11 名、引率教員 3 名の 25 名を一団とした。ここでは、全日程にわたって今回の研修の概要を示したい。生徒及び 2 名の引率教員からの詳細な日誌報告等が予想できるので、できるだけ異なった視点で研修概要（雑感）を紹介したい。

２．１日目：７月２０日（土）結団式

成田エアポートレストハウスにて 15 時 30 分に結団式の予定であったが､集合の 15 時には結団式会場にほとんどの生徒が集合していた。研修への意気込みとその緊張感が伝わってきた。

各先生方からご挨拶をいただいたのち、研修に際して､私も一言述べさせていただいた。引率する気持ちもあってか、例年以上に生徒の皆さんの表情がこの研修への期待に溢れているように見えた。その表情を見て私自身の身も引き締まる思いであった｡結団式終了後、事前研修を行い、団員全員ではじめての夕食をとり、各自、出発に備えることにした。

３．２日目：７月２１日（日）ホーチミン着

朝食をすまし 7 時に空港へ出発した。離陸は 10 分ほど遅れたが､無事にホーチミンの空港に到着した。現地ガイドさんと合流後、さっそく統一会堂、サイゴン大聖堂、一見すると駅のような中央郵便局、戦争証跡博物館へと市内視察に向かった。

現地ガイドさんによると、ベンタイン市場では「日本人の生徒さんが値切るのは難しいです」との話であった。しかし、考えていた以上に積極的に会話をする生徒が多く、値切り交渉もできたようであった。さっそく、全国代表の片鱗を見せてくれたようであった。

統一会堂にて。左、団の目印･扇子

ベンタイン市場

４．３日目：７月２２日（月）

日系企業である PLUS 社を訪問した。

PLUS 工場の社長・工場長さんによる工場紹介をいただいた。工場見学の前にはブラジルに次ぐ、世界第 2 位の生産量を誇るベトナムコーヒーの飲み方の指導を受けた。コンデンスミルクを用いるのが特徴であり、その苦さと甘さのバランスは絶妙であった。ベトナム文化の一端を知ることになる。

PLUS 社によるベトナム文化の紹介

この工場は、ビエンホア工業団地の広大な敷地にある工場で文具・事務用品を製造している。以前は軍の敷地であったからか、地域内の至る所に戦車や装甲車の張りボテが現在も置かれている。会社の方針は不良品を出さない「品質文化」、すれ違う従業員さん、作業員の方々の礼儀正しさも大変日本的であり、気持ちが良い。生徒から多くの質問も出されたが、PLUSベトナムでの就職について尋ねると、基本的には日本のPLUS本社での採用であるが、採用試験の際にベトナム勤務を希望してほしいなど、採用の現状も聞くことができた。従業員の対応、工場内の清潔さ、商品・安全管理等、日系企業らしさを感じた工場であった。続いて、現地の企業である、DAI LA MECHANICAL MANUFACTURING TRADING Co.,Ltd.（ダイラ機械製造貿易有限公司）を訪問した。日本でいえば町工場の中小企業という雰囲気であった。社長さんからは、多くは日本向けの車両部品や建設用機器を製造しているという説明をいただいた。今年中に工場を新設し事業の拡大を図るということであった。見学者全員に水のペットボトルをいただき、記念撮影の際には従業員全員を呼びまわってくれるほど、サービス精神旺盛であった。ここで働く人の求e人方法は、工場前に求人広告を出して応募者の面接により採用を決定しているとのことで、経験・未経験は問わず、初心者には担当が技能を教えるとのことであった。

DAI LA 社ホーチミン工場

この２社の企業訪問で、生徒は日系企業と地元企業の労働環境・労働条件の違いを実感できたと思う。

５．４日目：７月２３日（火）

ベトナム日本人材協力センター（VJCC）訪問では、ハノイ大学や専門学校の学生さんとの交流を行った。初めて現地の方と直接会話をする機会となった。ベトナムの「手作りかるたゲーム」「童謡（歌）」「鳥かごから飛び出すゲーム」を楽しんだ。

その後、日本から持参した「竹とんぼ」体験を行い生徒には充実した時間となった。「竹とんぼ」は大好評で、ベトナムの「竹とんぼ」は羽根の角度がフラットのため持参したもののようには飛ばないということであった。今回の作成者の技術力が証明されたような気がした。日本の歌のお返しとして「上を向いて歩こう」を披露した。午後には、ベトナム歴史博物館を見学した。

６．５日目：７月２４日（水）

9 時から、ハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）を訪問させていただいた。バスを降りると副学長さんを含めた多くの教員の方、ボランティアの生徒の皆様の列に迎えられた。伺っていた状況とは大きく異なり大変戸惑った。学生さんによる歌やダンスの披露のあと、2 名の副学長さんに丁寧な校内案内をいただいた。

校内の各工場には施設・設備に出資した国の国旗と説明文が掲示されていた。写真の実習工場は、日本の関係者の出資によって整備されたもので、ロゴが示されていた。その他の国には韓国・中国の関係が多かった。実験機器として導入されているものに、都立高校に導入されている機器と同様のオーストラリア製のものが見られたが、多くの機械類は旧式のものが目立った。

日本企業等が出資した校内工場施設

校内の掲示板に大きな求人票が掲示され、学生に紹介されている。色の異なった求人票で企業ごとに掲示されており、ブルーの掲示版は､日系企業の日野自動車のものであった。求人票の内容は日本のものと同様とのことである。

学校に届く求人票の掲示板

午後は、日本語を勉強しているハノイ大学の学生さんと B&S プログラムを実施した。ベトナム人向けショッピングモールであるビンコムセンターでの買物や学生さんと将来の話など、ゆったりとした時間を楽しんでいるようであった。

大きなショッピングセンターであるビンコムセンター界隈を小原先生と散策してみた。近代的な喫茶店等も見受けられたが、数百メートル進むとホーチミンの街中に戻ったような交通事情や、身ぐるみはがされたニワトリを歩道に広げて水洗いする姿、その臭い等に我慢できず短時間で散策を終了した。

ハノイ大学の学生さんとのひととき

記載する機会を逃したが、ホーチミンでまず気になるのがやはり交通事情である。おそらく、どの生徒も触れているであろうバイク利用の多さ、日本では考えられない交通と生活ルール？「みんなでわたれば・・・」的な横断方法がルールである。しかも「ゆっくりとわたり、急いで渡ると責任持てない」という、よくわからないルールであるがこれもベトナムの文化である。

ホテルからの買い出しのルールも横断歩道はわたらず、通行してくる自動車・バイクは堰き止めながら？タイミングよくみんなで渡る？しかし、不思議と数日で慣れていった。

ホーチミンの交通状況

７．６日目：７月２５日（木）

市内視察（ホー・チ・ミン廟・一柱寺・ホアンキエム湖、ハノイ大教会）とバッチャン焼き絵付け体験、水上人形劇鑑賞というベト

ナム文化に触れ、異文化理解の一日となった。

街の中心にあるホアンキエム湖に短時間立ち寄った。おそらく休日等に憩いの場になる湖畔にも、老人が数人くつろいでいるだけであった。規制があるのか、街の路上で普通に行われている調理や販売、ごろ寝のような姿は見られなかった。大きな湖にもかかわらずまったく柵もなく、安全の配慮はない。日本では考えられない光景であった。

街の中心にあるホアンキエム湖

昼食時にベトナムに来て初めてのスコールに見舞われた。予想はしていたものの店の中や大型バスの中まで雨漏りするほどの激しさは予想外であった。しかし、どのような雨であってもバイクの通行状況に変化はなかった。

スコール時に着用できるレインウエアは大変便利そうである。価格帯は、使い捨ての数十万ドン～数百万ドンと幅が広い。

その後、バッチャン村へ移動したのだが、バス移動中に2度目のスコールにあった。スコールによって道路が水没する時もあり、自家用車はエンジンまで水没して走行不能になることも多いという。レスキューを呼ぶことになると、道路は大渋滞になる。

伝統工芸村であるバッチャン村では、今回唯一のものづくり体験としてベトナムでも有名なバッチャン焼きの絵付けを体験した。

スコールの中でも移動はバイク

スコールで水没寸前の乗用車

夕方には「ハノイ市文化・スポーツ・観光局　タンロン水上人形劇場」に移動した。「ハノイ大教会」や「水上人形劇」視察の際には、数十分でもと自由時間をとった。多くの生徒は買物や街での散策行動が自由にできるようになっていた。可能であれば「TICKETS」購入も経験させたかった。

タンロン水上人形 TICKETS 売り場

８．７日目：７月２６日（金）

世界遺産「ハロン湾：ドラゴンが降りる場所」への移動日である。

途中休憩を挟んでの約 3 時間半の道のりであった。時間を持て余す予想をしていたが、車外の風景は期待をしていたベトナムの田園風景があり、生徒も体を休めながら案内を聞き、個人的にも時間を感じさせない移動であった。

高速道路上でありながらフランスパンが販売されていた。考えられない光景だが、買う人がいるということでもある。また、時折どしゃ降りの雨が降ってきたが、多くのバイクは高速道路上の高架下に停車し、雨宿りをしている様子もまた不思議であった。

高速道路上のフランスパン販売

原付バイクは免許を取得する必要はないなど、いろいろ驚かされたベトナムの交通事情であるが、将来的にはバイクの規制も考えられており、現在、大規模な地下鉄工事が進んでいる。どのように今のバイク社会を変えていくのか楽しみであるが、このバイク社会が変化してしまうのは無責任ながら寂しい気もする。

ハロン湾では 10 隻以上のクルーズ船が停泊している。私たちの船は「BAI THO JUNK 57」である。湾内の絶好の撮影場所ではクルーズ船同士が接触するほどひしめき合っていた。クルーズ船には洗濯物や布団、海産物などが干されており、生活感が溢れていた。

BAI THO JUNK 57

なんといってもハロン湾がこれ以上ないという晴天であったことに感謝したい。

クルーズ船内では民芸品等の販売があった。なかでもハロン湾で養殖している真珠の装飾品は高価であった。この地域では多くの貝類の養殖を職業にしている家庭も多いということであった。

ハロン湾近くでの真珠・貝類の養殖

９．８日目：７月２７日（土）

全ての予定を終了し、成田空港に到着した。ハノイ空港到着前のバスの中で、参加生徒一人ひとりと引率教員のあいさつの時間をとった。生徒たちの満足げな表情を見て、緊張の糸が緩んだような気がした。

成田空港では解散式の時間も設けていただいたが、「生徒の皆さんの活躍を心から期待し、応援しています」という気持ちを込めて「ひとまず 19 団を解散します」と述べ、多くを学べた 8 日間の研修を終了した。

１０．雑感、まとめ

第 19 回高校生海外研修ベトナム社会主義共和国研修は、全国から選抜された 22 名の工業系高校生が参加し事故なく 8 日間の日程を終えることができた。

少々強行なスケジュールの部分も感じられたが、参加生徒にとって大変有意義な研修になったことは間違いない。

ベトナムで聞かれた工業高校生らしい最初の発言は「こんなに電線がむき出しで、適当にまとめられていて問題ないのですか？」というようなガイドさんとの会話であった。

また、そのあと電気工事士の上級資格を取得したいなどの会話が続けられた。

街中のむき出し電線の束

ホテルの看板裏もむき出しの配線

鳴りやまないクラクションとほとんど意味のない信号。路上で食事をし、昼寝をしている歩道の横をバイクが走る。ホーチミンの通勤時間帯は朝 7 時頃、ハノイは朝 8 時頃となり、バイクの往来は最高潮になる。

ハノイのホテルからの風景

ホーチミンのホテルに向かう途中の道路の先には大きなイオンモールが目立っていた。ベトナムの方々にも人気で、ここで一日を過ごしている人も多いという。さらに、もう一施設建設しているということである。商業施設ではサービスを含め、日本との関係を感じる場面は多かった。

ベトナム紙幣のドンは「額面から 0 を 2 つ取り、半分にすると日本円に相当する」。生徒の対応は早かった。生徒たちには、「世界の中の日本」という視点と「日本とベトナムの関係」「世界の中のベトナム」を考える大変良い機会になったのではないだろうか。全体を通して予想をしていたほど韓国や中国の強い印象は受けなかった。

世界共通のコカ･コーラ ベトナム缶

新しい社会主義型市場経済を進めているベトナムは近年大きな経済発展を続けている。旅行もしやすい環境が整ってきているように思え、基本的には治安もよく、自分たちの意識次第で不便はないように感じる。

ただ、日本では考えられない施設も多く、近い将来そのような場所も整備されていくのだろう。

ドアのないトイレ

今回のベトナム研修には、本当に学習の素材が豊富であったように思う。企業訪問や学校訪問を中心に考えてはいたが、歴史的な学習要素による平和学習、世界遺産、昔ながらの文化陶器絵付け体験、現地学生との交流、独特な文化との遭遇、自然環境としての亜熱帯・熱帯性の気候など、多くの学びが集約されていた。

これらの学びを、将来を担う参加生徒たちが大いに活かしてくれることを期待したい。

ベトナム航空・戦争戦跡博物館・水上人形劇

今回絵付け体験をしたバッチャン焼きは、有名な「バッチャン村で焼かれたもの」という意味で焼き物の裏に刻印されている。五枚購入すると一枚おまけというベトナム商法に変わりはなかった。

バッチャン焼き壁掛け、兼コースター

おそらく忘れることがないであろうベトナムのお金ドン紙幣である。思いのほか多くの生徒が何度も何度も換金していた。日本で人気のタピオカは 1/3 程度の値段で購入できる。物価はかなり安かったように思う。

122,000ドン ＝ 610円

漆を塗った花瓶や食器類、水牛の角を活用した置物はお土産の定番である。水田地域を移動する際に“半野生”という説明の牛？は多く見られたが、ベトナムを紹介する冊子にあるような水牛の姿を見ることはできなかった。しかし、水牛の角の置物は定番であるので最後の一枚として載せておきたい。

水牛の角でできたフクロウの置物

１１．おわりに

ベトナム社会主義共和国では、工業高等学校という概念はないそうである。ベトナム北部には機械金属系の日系製造企業が多く、日本からの直接投資による工業化も進んでおり、ホーチミンを中心に、ベトナム南部だけでも1,000 社以上の日系企業が進出しているということであった。材料の輸入先も日本が最も多く、次いで中国やタイであり日本との関わりは、ますます強くなるように感じる。ベトナムに日本の工業高校のようなカリキュラムを持つ学校が存在すれば、人的支援も可能であろう。今後の学校経営的な日本との関係にも期待したい。

今回の研修にあたっては、基本的に鈴木事務局次長の決定した 5 班の編成で行動することにしました。班長、副班長が中心になり挨拶が必要な際は、輪番で行いました。

生徒たちの行動については、さすがに全国から選抜された生徒たちです。生活面でとくに気になることもなく、あえて、これでよいのかと自問自答する場面が多かったように思います。それは問題視することのない生徒たちの行動に対しての不思議な感じ方だったように思います。8 日間の生徒たちの生活態度については、引率をお願いした都立工芸高等学校の矢澤正己教諭、都立多摩工業高等学校の小原豪教諭の的確な指示のおかげと心より感謝しています。私の知らない部分で、両先生のご苦労があったことは容易に想像できます。何より毎晩お疲れのところ全員のノート点検に時間を費やし、その確認の際には生徒の健康管理を含め、個人の状況把握にも努めていただきました。

また、添乗員の岩原さんには、あらゆる面で本当にお世話になりました。この研修が予定を変えることなく、落ち着いて、楽しく進められた最大の要因であると考えています。おそらく生徒たちは、引率の教員が 4 人いると考えていたことでしょう。私自信はそう思っていました。

素晴らし生徒たちに出会えたこと、頼りになる3人の引率者と同行できたことを19回団長として心から感謝いたします。

全ての研修が成功裏に終了できましたことを改めてご報告し、これまでの計画及び、数々の調整をしていただきました全国工業高等学校長協会の皆様、なかでも海外研修担当事務局次長の鈴木賢二様、国際化推進委員の先生方にお礼申し上げます、有難うございました。

８日間限定クラスで挑んだベトナム研修

東京都立多摩工業高等学校
引率教諭　小原　豪

はじめに

中学生のころ、ベトナム難民の人と交流する機会があった。いわゆるボートピープルである。すし詰めの船に乗り命を懸けて日本にたどり着いたと聞いた。それから多くの時がたち、今では日系企業のベトナム進出が続き、日本も ODA を提供するなど、世界から注目され今もなお成長を遂げており、工業教育を仕事とする立場からも大変興味のある国であった。そして、本研修において引率の機会が与えられ、ベトナムの地に足を踏み入れることとなった。

現任校での引率業務であれば毎日のように顔を突き合わせている生徒たちが相手だが、本研修においては、初めて会う生徒ばかりで、どのように接すればよいか迷いもあった。

しかし、そんな迷いも束の間、参加生徒はコミュニケーションの達人ばかり、結果として有意義な海外研修を行うことができた。

以下にベトナム滞在記を記す。

１．ホーチミン編

7/21(日)　予定通りにホーチミンに到着

空気が身体にまとわりつくような蒸し暑さのなか冷え冷えのバスに乗り込み、統一会堂や郵便局、大教会そして戦争証跡博物館を見学し、ベトナムの歴史や建造物に触れた。その後のベンタイン市場では腕を捕まれんばかりの接客を受けながら値引き交渉の末、換金したばかりのベトナムドンで買い物をする生徒もいた。ベトナムで初めての食事はディナークルーズであった。2 時間ほどかけて夜景やベトナム音楽を聴きながら現地料理に舌鼓を打った。

夕食後ホテルへ向かうバスの中で明日の伝達を行った。チェックインの後、各部屋を巡回しながら本日の日誌を回収し、消灯した。

7/22(月)　この日は主に企業見学

①「PLUS 社」（日系企業）

「PLUS ベトナム社」では、修正テープやテープ糊、ステープラなどの文房具を製造している。1995 年に 15 名の従業員でスタートした本工場は、約 2,500 名の従業員を抱える一大生産拠点と成長し、その製品は、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各国で使用されている。ベトナム進出のメリットは「豊富で勤勉な若い労働力」とのこと。見学の際、周りを見渡せば若い方たちばかりであった。

特に印象に残ったのが「自動化専門部門」である。効率的な生産や品質向上、現場に寄り添い問題や課題に対応した自動化機械の開発・生産をしている部門である。この部門で働く人材は工業大学で学び、ロボコン大会出場経験者が多く、「メカトロニクス」の知識や技能が生かされている。

エントランスには歓迎の看板

②「DAI LA 社」（ベトナム系企業）

昼食後、バスは舗装されていない道を大きく揺れながら進み木々に囲まれた大きな倉庫風の建物が「DAI LA 社」である。

各種汎用機械や溶接機、数値制御工作機械を用いて容器の溶接や要素製作をしていた。設立され 10 年程ではあるが、経営者・従業員とオールベトナムで活気ある会社であった。

工場の様子

この日の夜は、日誌の提出を兼ねて面談を行った。本研修の参加理由や今日までのこと、体調等、時間をとり聴くことができた。

7/23(火)　ベトナム日本人材協力センター訪問

日本語を学ぶ現地学生といくつかのグループに分かれ交流を行った。互いの国の印象を紙に書き出した意見交換、かるた大会などで親交を深めた。そして、日本から持参した「竹とんぼ」を外に持ち出し飛ばしあった。ベト

ナムには、こんなによく飛ぶ「竹とんぼ」はないとのこと。また、この日のために日本から浴衣やけん玉、金平糖に自作の光る消しゴムなど持参する生徒もおり、交流が一層盛り上がった。さらに、交流のお礼として「上を向いて歩こう」を歌った。前日に皆で相談し、少しは練習したようだ。

昼食後、ベトナム歴史博物館見学を終えて国内線でハノイへ移動した。夕食を済ませホテルにチェックイン。ホーチミンのホテルよりも異国感が感じられ個人的には好みである。

２．ハノイ編

7/24(水)　学生交流と B&S

①ハノイ工業職業訓練短期大学

到着すると現地学生が歓迎のための花道を作ってくれていた。会場に入り、学生ボランティアによる歌や踊りも披露された。

施設見学では、旋盤やシーケンス制御、自動車整備などの学習環境が充実しており日本の工業高校生も興味深そうに見学していた。

歓迎のお礼に「上を向いて歩こう」を歌った。また、昨日タイミングを逃し披露できなかった浴衣もここで説明をつけながら紹介することができた。

お礼のセレモニー

②B&S

B&S プログラムでは、顔合わせを兼ねて昼食会をした。その後、ビンコムセンターという大型ショッピングモールとその界隈を五つの班に分かれ散策した。皆、現地の方の案内で良い買い物ができたようだ。また、どの班も途中カフェなどに入り B&S に協力してくれた学生さんの将来の夢や自己実現のために必死に勉強していることなどの話を聞き、多くのことを感じとった様子であった。

7/25(木)　ハノイ満喫

本日は、主に市内観光。ガイドブックでも紹介されている名所を見学した。

昼食後、ベトナム伝統手工芸の一つ「バッチャン焼き」の絵付け体験をした。さらに、水上人形劇鑑賞と満喫の一日であった。

7/26(金)　ハロン湾クルーズ

ベトナムの世界遺産と言えばハロン湾が有名。天気にも恵まれ絶景であった。途中、クルーズ船から降りて洞窟探検をした。その後、ベトナム最後の夕食を食べ、空港へ移動。帰国の途へ就いた。

おわりに

本研修では、ベトナムの永い歴史の流れと南北に長い国土に応ずる土地柄の違いを生徒とともに肌で感じることができた。また、東南アジアで今一番急成長しており、今後多方面で変化が起こるであろうベトナムを高校生という多感な時期に訪れたことはこれからの人生を送るうえで大きな財産になることと確信する。

生徒状況としては、二日目あたりから腹痛や体調不良を訴える者もいたが大事には至らず、集合時間にも一度も遅れずに過密なスケジュールを立派にこなしていた。

そして、日を追うごとに生徒たちの結束力も高まり、古くから互いを知るクラスメイトのようであった。

最後に、本研修において引率業務の機会を与えてくださったことに感謝いたします。

高校生海外研修引率を終えて

東京都立工芸高等学校
引率教諭　矢澤　正己

１．はじめに

令和元年 7 月 20 日から 27 日まで海外研修を引率させていただきました。

各地域から選出させた代表生徒たちは、見たものから学び、多くの物を吸収しようという気持ちにあふれており、その意気込みに触れながら過ごした約 1 週間は非常に充実した日々でした。

この研修で初めて訪れたベトナムは、賑やかで活気にあふれる国でした。その一方で過去の戦争や植民支配などの歴史的背景を感じ、考えさせられることが多くありました。

また、ベトナムは日本に似たところが多い国でもあります。南北に長く伸びる地形、米食文化、稲作中心の農業国ですが近年工業分野の発展が進んでいること、大乗仏教国であり、手先が器用なことなどです。

しかし、現在の日本と大きく違う点があります。それは、人口分布です。ベトナムは 25～29 歳までの人口が一番多く、これから多くの若い労働力が期待できる国といえるでしょう､それに比べ日本は 45～49 歳までの人口が多くそれ以下の年齢層は減少の一途をたどっています。今回の研修の中でハノイ工業職業訓練短期大学を見学させてもらいました。そこには、日本の工業高校と同じ、分野によってはそれに勝る施設がありました。多くの若い人たちに技術を身に着けさせることができる設備と環境が整っていることが解りました。この技術と労働力で今後もベトナムは大きく経済発展すると思います。対して日本の若い労働力の減少は否めない現実があります。貴重な若者達により専門的で世界で活躍できる技術を教えていくことが非常に重要なことだと感じました。

私が今まで教えてきた土木･建築分野では、日本にとどまらず、世界で活躍している卒業生がいます｡工業高校生が将来を考えるとき、意外と身近に海外に活躍の場があるのです。この研修が幅広い視野を持つ機会となり、多くの工業高校の幅広い活躍のきっかけとなりますように、そして来年以降も良い研修の場となることを願います。

２．研修記録

1 日目（7 月 20 日（土））

成田エアポートレストハウス集合	15:00
結団式及び研修事務連絡	15:30
夕食	19:00

集合前から成田空港で少し緊張した面持ちの参加生徒の姿を見かけました。

結団式での挨拶を聞き、参加生徒は身が引き締まる思いだったのではないでしょうか。日本全国から集まったこともあり生徒自己紹介は個性が出ていました｡研修会では､班長･副班長の選出が順調におこなわれ、交流先で使う竹とんぼの練習で少し緊張をほぐれました。夕食は、国内移動の疲れとまだ慣れない緊張からか、なかなか食が進まない生徒がいて心配しました。夜になるとホールや廊下で（研修中性別問わず部屋の移動は禁止・交流は共有スペースのみとしました）生徒同士交流している姿を見かけ、私も仲間に入れてもらいながら明日からのベトナムへの思いを話合いました。

結団式

夕食

2 日目（7 月 21 日（日））

朝食後集合	6:30
ホテル出発	7:00
成田国際空港発 VN-301	9:30
以下から時差-2 時間	
タンソンニャット国際空港着	13:30
統一会堂	15:05
戦争証跡博物館	15:50
郵便局・大教会	16:15
ベンタイン市場	17:15
ディナークルーズ	19:00
ホテルチェックイン	21:00
荷物整理・日誌・コンビニへ買物・入浴等	
就寝	23:00～00:00

成田エアポートレストハウスで朝食後、バスで空港へ移動。忘れ物や遅刻者なく順調に出発。空港では、初海外初出入国検査の生徒が無事に通過できるか心配していました。タンソンニャット国際空港のロビーに到着すると、到着客を探す現地の方と外から聞こえるバイクや車のクラクションなどの喧騒、そして湿度の高い暑さにいよいよベトナムに来たと感じました。市内観光では、統一会堂をガイドしてもらいながら見学しました。旧ベトナム大統領官邸なので来賓を招くための豪華な作りや地下に軍事施設が備わっているなど、他では見ることができない建築物であり、生徒は熱心に見学し写真を撮影していました。戦争証跡博物館では、ベトナム戦争の記録写真やデータ、実際に使われた拷問道具や戦闘機が展示されていました。生徒は神妙な面持ちで見学しベトナム戦争の悲惨さを感じたようでした。

その後、郵便局・大教会を見学し建築物の様式などからフランスの植民地であったことを目で確認できました。郵便局では数名で日本へエアメールを送ったのも良い思い出です。（私は無事届きました。みなさんも届きましたか？）

ベンタイン市場は、客引きがしつこく値切交渉が難しいので地元の様子を覗くだけだろうと予想していましたが、みんなたくましくお買い物をしていました。

ディナークルーズでは、にぎやかな歌謡ショーやダンスが開催されていてベトナム 1 日目の夜には少し刺激が強い気がしました。しかし、派手でにぎやかなベトナム文化を体感できたのかもしれません。

郵便局

ディナークルーズ船

3 日目（7 月 22 日（月））

朝食後集合	8:20
ホテル出発	8:30
PLUS 社ベトナム工場視察	9:30
昼食	12:30
DAI LA 社ホーチミン工場視察	14:00
ホテル着・交流会出し物検討・着替えなど	
夕食（伝統舞踊ディナーショー）	19:00
ホテル着　日誌・コンビニへ買物・入浴等	
個人面談後就寝	22:30～0:00

午前は、文房具で馴染みのある日系企業 PLUS 社の見学をしました。名物のベトナムコーヒーをいただきながら、ベトナムという国について、企業と工場について詳しくご説明いただきました。工場は空調がきいていて、きれいでシステム化されており非常に働きやすい環境でした。ハード面だけではなく、働く人の気持ちを考えた環境作り（無理をさせない、安全に家族の元へ帰る）がされていました。金型設計、製作などは日本の工業高校を卒業して仕事にしたいような部門もありました。工場見学後の質問も多く出て有意義な視察となりました。

PLUS 社ベトナム工場

午後は、ベトナム企業の DAI LA 社を視察しました。工場内に空調はなく、機械加工の煙が出るなか工場を見学しました。午前にシステム化させた PLUS 社を見学した後だったので、職人さんの手加工に近い状況に環境の違いを感じ、生徒は少し驚いた様子でした。

DAI LA 社ホーチミン工場

見学が予定より早く終わったので一度ホテルに戻り、明日以降の交流会での出し物の準備をしました。色々な案が出たようですが、坂本九の「上を向いて歩こう」を合唱することになり、今後バスの中で時間を見つけては練習することになります。他にこの様な時間を取ることができないのでこの時間は貴重でした。

夕食は、貸切りで伝統舞踊を見ながらのディナーショーでした。ベトナム各地の民族衣装と日本では見かけない楽器の演奏を聴きながらの食事はベトナムの民族文化に触れることができるひとときでした。

4 日目（7 月 23 日（火））

朝食後集合	9:20
ホテル出発	9:30
ベトナム日本人材センター訪問	10:00
昼食	12:50
ベトナム歴史博物館	13:30
タンソンニャット国際空港発	
国内線 VN-258	17:00
ノイバイ国際空港着	19:05
夕食（ベトナムフレンチ）	20:00
ホテルチェックイン	22:00
荷物整理・日誌・入浴等	
就寝	23:00～0:00

ホテルのチェックアウト、国内線への搭乗があるため荷物準備をしてホテルを出発しました。バスの中でお礼の歌を練習しながら移動しました。ベトナム日本人材協力センターでは、まず初めに相手の国の印象を話しながらの自己紹介でアイスブレイク、その後日本やベトナムに関連するカルタ、鳥かごから飛び出すというベトナムの遊びで大いに盛り上がりました。そのあと、日本からのイベントで､外で竹とんぼを使っての交流をしました。室内に戻り、ベトナムの歌を教えてもらい全員で合唱しました。お礼に「上を向いて歩こう」を合唱するとベトナムでも知られている曲のようで喜んでくれました。最後は名残惜しく写真を撮りセンターを後にしました。

かるたで楽しく交流

ベトナム日本人材協力センター

昼食を済ませ、ベトナム歴史博物館へ。原始時代からの貴重な石器、陶器などの調度品や像が数多く展示されていました。少し急ぎ足で見学を終え、タンソンニャット国際空港へ。搭乗手続きを済ませ、問題なく国内線に搭乗することができました。交流会と見学の疲れからか、ほとんどの生徒がお昼寝タイムを取りながら移動となりました。なかには夜遅く日誌を書く大変さを見越して機内で日誌をまとめる生徒もいました。ノイバイ国際空港到着後、夕食のベトナムフレンチへ。フレンチは日本でも食べ、馴染みがあり食べやすかったようです。盛り沢山の 1 日で遅い時間のチェックインとなりましたが荷物整理や日誌をまとめてから就寝しました。

5 日目（7 月 24 日（水））

朝食後集合、ホテル出発	8:15
ハノイ工業職業訓練短期大学訪問	9:00
昼食（B&S 顔合わせ）	12:00
B&S プログラム	14:00
夕食	18:30
ホテル着	20:30
日誌・入浴等	
就寝	22:00～23:00

午前は、ハノイ工業職業訓練短期大学を訪問しました。夏季休業中にも関わらず、多くの学生に参加いただき、歌やダンスなどを交えた手厚い歓迎を受けました。お礼として日本の生徒から、けん玉披露、浴衣を実際に着ての説明､「上を向いて歩こう」の合唱をおこないました。質疑応答では、ベトナムと日本双方の生徒から学校生活や進路についてなどの質問が出ていました。施設見学にも大勢の生徒が同行し賑やかな見学でした。日本メーカーの工作機械やシステムが使われていて、日本の生徒が実習で使用している機械もありました。中には、日本の工業高校より施設が充実している実習があり、ベトナムの工業技術教育への力の入れ方が良く解りました。

午後は､B&S プログラムをおこないました。昼食会場で各班に 1 名ずつ担当のベトナムの学生が紹介され、一緒に昼食を取りながら自

己紹介などをおこないました。昼食後ビンコムセンターというショッピングセンター近くへ移動し、ベトナムの学生を交えて班で散策しました。お土産や飲み物などを買うためにスーパーに寄りベトナムのおすすめの食品を教えてもらい、カフェでお茶を飲みながらコミュニケーションをとっていました。B&S プログラムは地元学生とゆっくり話ができ生徒にとって有意義な時間となったようです。

ハノイ工業職業訓練短期大学

施設見学

昼食　B&S 学生紹介など

6 日目（7 月 25 日（木））

朝食後集合、ホテル出発	9:00
市内観光	
ホー・チ・ミン廟	9:00
一柱寺	9:40
文廟	10:10
ハノイ大教会	11:30
ホアンキエム湖	12:00
昼食	12:30
バッチャン焼き絵付け体験	14:30
水上人形劇	17:00
夕食	18:30
ホテル着	20:30
荷物整理・日誌・入浴等	
就寝	22:00～23:00

午前は、ハノイ市内観光しました。まず初めにホー・チ・ミン廟を見学しました。保存処置を施したホー・チ・ミンが安置されている場所です。服装や持ち物に制限があり入口ではセキュリティーチェックが行われていました。廟周辺は軍隊が警備しており、ベトナムにとって大切な場所であること、ホー・チ・ミンがベトナムで重要な存在であることが良くわかりました。

文廟では、ベトナム独自の建築構造が随所に見られ建築系学科の生徒と話をしながら興味深く見学しました。ハノイ大教会とその周辺、ホアンキエム湖を見学した後は、バイキング形式の昼食を食べました。

しかし、ここでスコールが降り出しました。中庭があるきれいなレストランでしたが、屋根から雨漏りし、中庭はプールのようになってしまいました。靴を脱ぎはだしで中庭を歩いたのも今では楽しい思い出です。そんなアクシデントのなか昼食を済ませ、バッチャン焼きの工房へバスで移動。バスでは、スコールで道路が冠水し自動車が水につかる様子やスコール渋滞を体験しながらの移動となりました。

バッチャン焼きの工房では、焼き物についての説明を聞いたあと絵付けをおこないました。シンプルに短時間で終わる生徒、下書きを持参し時間をかけて丁寧に仕上げる生徒など様々でした。体験し作ったものを持ち帰ることができたので良い思い出の品ができました。

ハノイ市内に戻り、水の上を人形が動き、動きに合わせた楽器の演奏やセリフを聞くという劇でした。コミカルな動きでセリフの意味が解らなくてもなんとなく内容を理解することができました。音楽は見たことが無い楽器もあり、その演奏の様子を見るだけでも楽しいものでした。

スコール時の町の様子

絵付け体験

7・8 日目（7 月 26 日（金）・27 日（土））

朝食後集合	8:20
ホテル出発（途中休憩あり）	8:30
ハロン湾クルーズ・昼食	12:15
夕食（着替え・荷物整理）	18:30
ノイバイ国際空港発 VN-310	0:20
以下から時差+2 時間	
成田国際空港着	7:35

成田空港内にて諸連絡後解散

最終日は、世界自然遺産に登録されているハロン湾へ行きました。体調に若干の不安がある生徒がいるため長いバス移動が心配でしたが、往路、復路ともに土産店に立ち寄りながら無事に移動することができました。土産店は手洗い休憩のために寄ると聞いていましたが、色々なお土産が売られていて残ったベトナムのお金ドンを使ってのお買い物タイムとなりました。さらに日本円も使えるので多くの生徒が買い物をしていました。少し割高かもしれませんがこういう観光客向けの土産物店は研修旅行では便利なのかもしれません。

ハロン湾到着時は雨が降っていて乗船できるか不安でしたが、船に乗るころには晴れ間が見える良いお天気になりました。出船するとガイドさんの説明を聞きながら船上で昼食。船酔いする生徒はデッキで休憩しながら食事をしていました。

食事が終わると、２階デッキでハロン湾の景色を撮影し風景を眺めるなど、風光明媚なハロン湾を満喫していました。クルーズの途中一度下船して、ティエンクン鍾乳洞を見学へ。長い年月をかけて作られた鍾乳洞はダイナミックで神秘的でした。

ハロン湾　船上で

クルーズを終えて､バスで夕食会場へ移動。昨日のバッチャン焼きを受け取ってから、最後のベトナムでの食事を楽しみました。食事をしながら入れ替わりで、荷物整理と飛行機搭乗前の着替えを済ませました。(4 班に分けて 1 班 20 分程度)落ち着いて飛行機に乗るためにこの時間と場所があってよかったです。空港へ向かうバスの中で、1 人ずつ感想とあいさつをしました。約 1 週間も一緒にいると別れが惜しく涙を見せる生徒もいました。帰りの飛行機では疲れて静かに寝ている生徒が多かったように思います。

成田空港到着後、到着ロビーで全工協会の鈴木次長に出迎えていただき、事務連絡等を済ませ解散しました。台風の天候への影響を懸念していましたが全員帰ることができそうで一安心でした。同じ方面で一緒に帰る生徒や解散しても各地方に戻るまえに東京周辺で寄り道する元気な生徒もいました。

成田空港で最後の連絡

３・最後に

海外研修に参加したみなさまへ

初めの結団式では緊張している様子が伝わってくるようでした。しかし、研修が始まると班長や副班長などの役割をきちんとこなし、一人も欠けず全行程に参加し、一度も集合に遅れず、毎日しっかり日誌を書き、積極的に研修に取り組んでいました。行程の途中で日誌に書いてくれたことについて、ベトナムの工業や文化について色々な話をしました。見て、思って、考えたことを話す時間はとても充実していました。途中体調を崩し、主に腹痛に悩まされ､集団生活での気遣いや寝不足、そしてベトナム特有の蒸し暑さで疲れたと思いますが、本当に良く頑張りましたね。日常ではできない沢山の経験をしたと思います。この経験を活かし、幅広い視野を持って、大いに活躍されることを期待しています。

最後に、一緒に海外研修を引率してくださった早川校長先生、小原先生には研修中の生徒指導や対応など様々な面で大変お世話になりました。添乗員岩原様は昨年の添乗経験があり、的確な連絡やアドバイスにより助けていただきました。先生方や岩原様には改めてお礼申し上げます。

７．参加生徒の報告

01 ベトナム海外研修に参加して

北海道札幌工業高等学校
建築科　３年

私は、公益社団法人全国工業高等学校長協会主催の高校生海外研修に北海道代表として参加しました。ベトナムについては、知らない事が多く初めて見聞きすることがたくさんありました。経済の事では、インフレとデフレの変動が激しいため、紙幣ではなく金を蓄えていることや、食文化では、私たちが食べている一般的な肉のほかに犬や猫も食べること、生活面では、水道水も飲めませんし、日本で当たり前のように出来ることが出来ませんが、日本のような発展を目指し、日々、目を見張るような成長をしていることなど、ベトナムの地を訪れ､毎日が発見の連続でした。

研修では市内見学や工場見学、現地学生との交流のほかにベトナム戦争について多くのことを学びました。戦車や当時の大統領の戦略を見たり、実際に使われた戦闘機や牢獄を再現したもの、枯葉剤の影響で奇形に生まれた子供のホルマリン漬けなど、予備知識のないまま訪問してしまった私にはかなり衝撃的で、今までの人生がとても幸せだったことに気がつきました。

短期大学での交流

また、社会主義国なので、私たちよりも自由と呼べるものは少ないと思います。それでも、現地の学生と言葉がわからないなりに交流したこと、企業見学で作業員の仕事に対する姿勢や、明るく私たちを迎えてくれた優しさに触れたことで、自分が実際に目で見て体験したことを少しでも多くの人に知ってほしい、そう思いました。

これほど短い期間でここまで自分の成長を実感したのは初めてで、共に研修をした仲間とこれほどまでに交流を深め何物にも代えがたい経験をすることができました。

ディナーショー後の記念撮影

帰りのバスで先生がおっしゃった「工業は人々の心を豊かにする」この言葉が忘れられません。工業やものづくりに対する考えや気持ちが変わり、視野も広がりました。ベトナムでの経験や仲間との思い出を、私は生涯忘れることはないと思います。

お世話になりました関係者の皆さんありがとうございました。

最終日、仲間との思い出

02 海外研修に参加して

青森県立弘前工業高等学校
情報技術科　２年

１．学校見学

今回の海外研修では、ベトナム日本人材協力センターやハノイ工業職業訓練短期大学を訪問しました。また、B&S プログラムでは、日本語が堪能なベトナム人学生とビンコムセンターというショッピングモールやその周辺を散策しました。これらの異文化交流では、現地の学生と積極的にコミュニケーションをとることを意識しました。

最初に訪問したベトナム日本人材協力センターでは、お互いに他国から見た自国の印象を 8 点挙げて意見交換を行いました。私がお話をした学生さんとはバイクの話で盛り上がりました。また、日本文化の紹介としてカルタをやり、ベトナム文化の紹介として鳥かごという遊びをやりました。お互いの国の情報を交換し、文化を知ることができとても貴重な時間になりました。

ベトナム日本人材協力センター

次に訪問したハノイ工業職業訓練短期大学は、21 学科 3500 人のとても大きな大学で設備が整っていました。日本との国際交流をたくさんしているベトナムの学生さんは気軽に英語で話しかけてくれてとても楽しかったです。最後にベトナムの経済成長について質問をしたときに、ベトナムの学生さんは、「教育の発達と日本との国際協力があるから」と回答してくれました。この回答を受けて僕は、このような海外研修でベトナムと日本が繋がり、更に世界の発展に貢献できることがわかりました。

２．企業見学

今回訪問した企業は、PLUS 社ベトナム工場と DAI LA 社ホーチミン工場です。

PLUS 社が“新しい価値で、新しい満足を”という理念を掲げて“日本品質を世界基準にする”を目標にしていることに私は感銘を受けました。工場内を見学していく中で品質向上に向けて役職や仕事の責任が見て解るようにビジュアルコントロールが採用され、創意工夫が施されていることを学びました。将来、国際的に活躍できるエンジニアを目指している私にとって今回訪問した PLUS 社代表の角坂さんの製品の品質に対する考え方はとても参考になりました。

次に訪問した DAI LA 社では、部品の製造、加工、塗装を行っていました。私が一番印象に残ったのは、コンピューターによる部品の設計作業です。部品の細かい部分までこだわっていて私もやってみたいと思いました。

DAI LA 社ホーチミン工場

３．現地見学

ベトナムを見学していて一番の驚いたことは都市部の交通状況です。急激な経済成長、人口増加などで交通インフラが追いついてな

いように見受けられました。また、バイクが歩道を走っていたり、信号無視が多発していたり、交通ルールが無いも同然でした。これらの解決策として列車や地下鉄の開通、IT インフラの整備をする必要があると思いました。学校で学んでいるプログラミングや情報通信技術を少しでもこのような問題の解決に活かせるように改めて勉強を頑張らないといけないと感じました。

また、数ある観光地の中から戦争証跡博物館とハロン湾が印象的でした。

戦争証跡博物館は、1 階から 3 階まであり、たくさんの貴重な戦争資料が展示してありました。その中でもアメリカ軍の枯れ葉剤によって被害を受けた子供たちの写真が印象に残っています。手足が無い人、2 人の体が繋がって生まれてくる人など症状は様々でした。私はこれらの写真を見て悲しい気持ちと戦争への反対意識が強くなり、“平和” について考える時間がとれました。

最後に見学した世界自然遺産のハロン湾ではクルーズ船に乗って絶景を見ながら蟹や海老などの海鮮料理を食べました。その後は洞窟に行き、自然によって生み出された神秘的な鍾乳洞を見ました。象やライオンの形に似た鍾乳石があって面白かったです。また、鍾乳洞を出た先の高台からの景色は絶景でした。

高台からのハロン湾

４．感想

ベトナムの文化や習慣に触れることで価値観が変わり、視野が広がりました。また、全国の工業高校生とも他県の学校についての情報交換ができ、たくさんの知識を得ることができました。これらのことは、学校の勉強だけでは体験できないことで、すべてが初めてで貴重な体験になりました。ベトナムで過ごした 1 週間はとても濃い内容で人間的に成長することができた気がします。

今回の海外研修に関わるすべての方に感謝します。学んだことを無駄にしないよう、これからの学校生活で技術力向上に努め、勉強をさらに頑張ろうと思いました。そして、自分の技術力と海外研修で学んだことを生かして社会貢献していきたいと思います。このような素晴らしい貴重な体験を与えてくださり本当にありがとうございました。

03 ベトナム海外研修に参加して

秋田県立秋田工業高等学校
電気エネルギー科　３年

１．学校見学

学校見学で 7 月 24 日にハノイ工業職業訓練短期大学を訪問させていただきました。ホールに入場するとき、生徒さんに盛大に歓迎されて驚きましたがすごく嬉しかったです。歓迎として、まず最初に現地で有名（？）な歌を 2 曲歌ってくださったので、こちらからは坂本九さんの「上を向いて歩こう」を披露しました。また、浴衣についての説明も興味津々に聞いてくれたので、みんな日本に関しての関心が高いのかなと感じました。

この学校は約 3500 人の生徒が通っていて、5 つのコース、21 の学科に分かれています。ベトナム国内の様々なコンテストに出場しており、最新の設備が整っておりハノイの中心部に位置しています。そのため海外交流に参加しやすく、特に日本との交流を大切にしているそうです。現地の生徒さんに質問する機会があり、いろいろ聞いていくうちに、ベト

ナムの急激な経済成長に関して政府が力を入れて人材育成を行い、国全体で経済を発展させていることがわかりました。

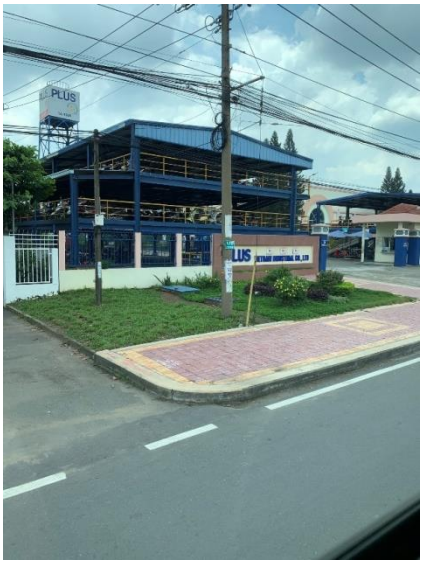
午後は現地の大学生とビンコムセンターというショッピングモールで交流しました。僕が体調悪いのを気遣っていただき、本当に感謝しています。別れる際はとてもさみしくなりました。またいつか会いたいです。

２．企業見学

企業見学では、日系企業のPLUSベトナム有限会社とベトナム系企業のDAI LA社を訪問しました。

PLUS 社は文房具を作っている日本の企業でベトナムに工場を 2 つ持っています。この企業の特徴はビジュアルコントロールという制度を導入していてこの取り組みを聞き、とても画期的だと感じました。日本でも聞いたことがなかったので行程や動作、作業の進行状態が一目でわかるのはいいと思いました。

DAI LA社に向かう途中の道路が未舗装で栄えている工業団地との差を感じました。日本と違って著しく違いが現れているのが衝撃的でした。



PLUS さんにて

DAI LA社は、まだ小さい会社だという風に社長さんもおっしゃっていて、中に入るとほとんどが手作業で行われていました。これも発展している会社と小さい会社との違いかなと思いました。また、エアコンなども無くとても暑い環境のなかで仕事されていたので大変そうだと思いました。如実に作業環境の差を感じました。

３．現地見学

ホーチミンとハノイで現地見学を行いました。ホーチミンの歴史的な建造物や博物館ではベトナムの文化に触れることができました。一日目に見学した戦争証跡博物館ではショッキングな写真ばかりで声も出ませんでした。戦争でけがを負った子供の写真、戦死してしまった兵士の写真などがあって言葉を失いました。戦争の残酷さを改めて知らされたような気がしました。現在も中東では同じようなことや紛争が起きています。世界が平和になることを願っています。

ハノイではホー・チ・ミン廟などを巡りました。ホー・チ・ミンはベトナム初の国家主席でロシアに留学して社会主義を勉強し、1954年に社会主義を実現させ、1969年に79歳で亡くなりました。自らの夢を本当に実現させるのは簡単ではないと思うので本当にすごいなと思いました。ハノイ大教会はアメリカとのベトナム戦争があったにもかかわらず、無傷だったそうです。ハノイ観光の午後はバッチャン焼きを体験しました。バッチャン焼きは近くの川でとれる白土から作られ、600年前から始まった焼き物だそうです。大きさも様々で作られたものは王様の家族にしか売られませんでしたが、村の人口が増えてからは王族以外にもたくさん売ってお金を稼いだそうです。現在では村の90％がこの仕事をしているらしいです。600年も同じ技術を引き継いでいるのはすごいと思いました。

４．感想

今回の研修は自分を変えたいと思って参加

した研修でしたが、よい意味で成長できたと思います。初めて会う人たちと一週間過ごすことに不安しかなく、最初は人見知りして大変だったのですが、結果的にはすごくよい研修になり、ベトナムに行ってからはみんなと打ち解けることができたので別れる際は非常にさみしかったです。ベトナムではとてつもないスコールに出くわしたり、市場で押しつけて売ってくる人に驚き、自然の猛威や文化の違いを身を持って感じることができました。ベトナムの食事が体に合わなくておなかを壊したのは、よい思い出です。今回のこの貴重な経験を生かして就職した後の生活や今後の学校生活に生かしていきたいです。

ハロン湾の鍾乳洞

04 海外研修に参加して

宮城県工業高等学校
インテリア科　２年

１．学校見学

ベトナム日本人材協力センターで現地の学生と日本・ベトナムの遊びを通して交流しました。日本の遊びである「かるた」は、「聞く・考える・見る・選ぶ」という４つの要素を同時に行いますが、現地の学生は、迷うことなく楽しそうに時間を過ごしており、すごく日本語の能力が高いのだなと感じました。また、ベトナムの遊びでは「ベトナムの民謡」を習いました。日本の民謡とは、発音とリズムが違い難しかったのですが、丁寧に指導してくださったので、一緒に歌うことができ、楽しく交流することができました。

次に、ハノイ工業職業訓練短期大学校に行きました。そこは、とても広い敷地で、実習工場には、私が想像していたよりもたくさんの機械が揃っており、充実した実習環境が整っていました。その理由は、現在、ベトナムは経済成長しており、これから活躍する若者に期待を込めて人材育成しているためとのことでした。また、卒業後は日本に行き、さらに技術を磨きたいと意欲的な方もいました。

２．企業見学

日系企業「PLUS 社」の工場見学をしました。工場にはエアコンが多数設置されており、年間を通して暑い季節が長いベトナムで、社員が快適に作業できる環境が整っていました。また、この企業では、社員一人一人に「礼儀正しく」「製品を丁寧に扱う」社員教育を徹底しており、日本の各企業や本校の実習においても大切にしている「５Ｓ」＝「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」のポスターが工場に掲示してありました。私はこれを見た時に、この企業では日本と同じ社員教育をしているのだということを理解することができました。また、ボトムアップという手法を使って、社員一人一人の意見を大切にする会社づくり・人づくりに感銘を受けました。

現地企業「DAI LA 社」では、暑い工場の中で作業をしていました。日系企業とは違い、製品を少々雑に取り扱う場面がありましたが、コンピューターと連動する機械を使うなど、働く人たちにも活気があり、良い製品を作ろうとする意欲が伝わってきました。

このように、両社とも働く環境と社員教育に違いはありますが、社員一人一人が仕事に対して真面目に向き合う姿勢と、企業が社員を大切にしている温かな雰囲気はどちらにも共通していました。

３．現地見学(ホー・チ・ミン廟)

私は、ホー・チ・ミン廟が印象に残りました。そこは、1969 年、ベトナム建国の父と呼ばれているホー・チ・ミン氏が亡くなった時に、旧ソ連政府の支援により遺体を安置された場所です。見学前には荷物検査と服装チェックがあり、とても緊張感がありました。検査を終えて無事入場しましたが、立入禁止エリアは､制服の兵士により厳重な警備がされ、さらに、見学者は私語や立ち止まることも禁止されおり、とても厳粛な雰囲気の場所でした。

ホー・チ・ミン氏の顔はベトナム紙幣すべてに描かれ、また、街のいたるところに肖像画が飾られていて、すごく偉大で尊敬されている方なのだと感じました。

ホー･チ･ミン廟　交代式の様子

４．ベトナムの文化について

ベトナムの王朝時代は、中国からの影響を強く受けていて、王の椅子や衣装の装飾には立派な龍が描かれ、書物や印には漢字が使われていたことが分かりました。そして、水上人形劇の時には、琴や三味線のような楽器が使われており、日本の文化と共通するところもありました。

また、フランスの植民地だった時代もあるため、街にはアーチ状の窓や装飾、テラスなどがあるヨーロッパ風の建築物も多く見られました。しかし、外壁の色彩はカラフルで、個性的なデザインの建築物がたくさんあり、アジアとヨーロッパの文化が融合されているのだと感じました。

５．現地見学(ハロン湾と鍾乳洞)

世界自然遺産に登録されているハロン湾は、宮城県松島の風景を大規模にした感じで、迫力のある絶景でした。そして、鍾乳洞に初めて入った私は、自然現象によって生み出された神秘的な空間に魅了されました。360 度すべてが大自然に囲まれたハロン湾。私自身、久しぶりに行った海でしたので、参加したみなさんと最終日を大いに楽しむことができました。

ハロン湾

６．ベトナムと日本の違い

私は、外国に対する意識の違いが大きいと思いました。日本では、外国語に苦手意識を抱いている人が多く、島国のため「ここは日本！」と構えて生活している印象です。一方、ベトナムは母国語のみならず、英語や日本語を話せる人がたくさんいて、ただ単語を並べるだけでなく、しっかりとした文章ですぐに返答してくださるので､言語能力が高い上に、外国語の習得にも意欲的だと感じました。今後はそれを見習い、私も積極的に外国語の習得に励みたいと思いました。

７．感想

今回の研修は、私にとって初めての海外でした。初対面のみなさんと上手くやっていけ

るのか、とても不安でした。しかし、研修が始まるとその不安はすぐに解消され、初めて体験することばかりの刺激的な一週間が始まりました。

まず、五感すべてで異国の雰囲気を感じ、たくさんの方と交流して、新たな知識や考え方を得ることができました。はじめは、人見知りの性格が邪魔をして、なかなか会話することができませんでしたが、添乗員さんに「買い物で欲しい物とコミュニケーションを一回で手に入ることができるチャンス！一石二鳥だよ！」とアドバイスされて勇気づけられ、少しずつ積極的に会話ができるようになりました。そして、買い物をする際には、B&S の学生さんや店員さんに話しかけ、「これはどんな商品なのか？」「おすすめの商品はどれか？」など、たくさんコミュニケーションをとることができました。

今回、この研修に参加して、自分自身でも驚くくらい成長したと感じています。ここで得たことをこれからの学びや人生に活かし、何事にも挑戦していきたいと思います。参加者のみなさんとともに学び、経験したことは、私のこれからの人生に大きく影響する貴重な経験となりました。

ありがとうございました。

05 海外研修報告書

神奈川県立平塚工科高等学校
総合技術科　２年

１．学校見学

ホーチミン、ハノイで１か所ずつ現地の学校を訪問した。ホーチミンでは、ベトナム日本人材協力センター（VJCC）、ハノイでは、ハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）を見学した。VJCC の学生さんとは、お互いの国の印象について話し合った。ベトナムの日本の印象は、温泉といった伝統的なものからアニメや漫画といったものまで様々だった。逆に私たちが思うベトナムの印象は、気温と食べ物などが多かった。話し合いの後はお互いの国の遊びをした。最初に日本のカルタ、次にベトナムの「鳥かごから飛び出す」という遊び、そして最後に竹とんぼを体験してもらった。「鳥かごから飛び出す」は日本でいうフルーツバスケットのような遊びで、とても楽しかった。竹とんぼも楽しんでもらえたと思う。コツをつかむのが早い人が多く、短い時間の中でとても高く飛ばすことができていた。学生さんはみんな日本語が上手く、笑顔で優しく話してくれた。

VJCC の学生さんと

HIVC では、最初に簡単な式を行ってから学校内を見学した。式では、歓迎の歌とダンスを披露してくれた。とても上手だった。お返しの歌の時に、団員の人が浴衣とけん玉を紹介した。とても盛り上がっていた。学校内の設備は充実していて、扇風機などもあり、暑くても十分実習ができると思った。安全に作業することを学ぶための実習室もあった。

２．企業見学

日系企業のプラス社と、ベトナム企業の DAI LA 社の工場を見学した。2 つの会社を比較すると様々な違いに気づくことができた。

一つ目は設備の違い。プラス社は高性能で安全な機械が多かった。これにより、1人で製品を組み立て、袋詰めまですることができていた。DAI LA社は、性能のいい機械は少なく、何人もの人が協力し合い一つの製品を作って

いた。機械を使ってはいたが、手作業が主だった。二つ目は作業環境と周辺環境の違い。プラス社はとてもきれいで、涼しく過ごしやすかった。DAI LA社は床に金属片や、部品、工具などが落ちていて危ないと思った。扇風機しかなく、蒸していて過ごしにくかった。プラス社の近くの道路は舗装されていて、都市部にも行きやすかった。DAI LA社では道路は舗装されてなく、田舎のような場所だった。

他にプラス社では、マークや三色ランプなどを使い、見ればすぐにわかるようになっていた。マークは、ものを大切に扱うようにという意味のものがあり、安全運転で帰ろうというポスターもあった。三色ランプは、そこを見れば、機械が正常に動いているかどうかわかるようになっていた。

ベトナムにも労働基準法があり、日本よりも厳しいものとなっている。最低賃金は月4180000 ドンで、日本円にすると約 2 万円、時給は約 100 円だった。

３．現地見学

ホーチミンでは統一会堂や郵便局、戦争証跡博物館などに行った。統一会堂と戦争証跡博物館では、ベトナムの歴史について学ぶことができた。爆弾や枯葉剤の影響などを、言葉はわからなくても写真や模型から感じ取った。二度と繰り返してほしくないし、繰り返してはいけないと思った。

郵便局はファンタジーな本に出てきそうな感じだった。中で売られていた雑貨はカラフルで、見ていて楽しかった。ほかに、市場や通りにも行き買い物をした。市場では商品を見ていると、すぐにお店の人に声をかけられた。驚いたのは日本語で話しかけてきたことだった。どのお店に行っても一人は日本語を話せる人がいた。日本に例えると、英語を話すような感じだと思った。あいさつといった簡単なものから、日常会話まで話せる範囲の違いはあったが、ほとんどの人が積極的に使っていて、その姿勢を見習いたいと思った。

ベンタイン市場

バッチャン焼きの絵付け体験をした。お皿やカップなど好きな器を選んで絵付けを行った。塗料は器につけるとすぐに乾いて固まってしまい、なかなか思うように描けなかった。難しかったが、とても良い体験になったと思う。絵付けの後、体験させてもらったお店のなかを見て回った。いろいろな模様、色合いのバッチャン焼きがありとてもきれいだった。

ハロン湾クルーズでは、海上の景色と鍾乳洞を楽しむことができた。きれいな景色を眺めながら食べたご飯はおいしかった。船の上に上がって、魚のような岩やゴリラの横顔のような岩を見た。

ハロン湾クルーズ

鍾乳洞は、ガイドさんが動物などに見える岩を教えてくれた。馬に見えたり、かめに見えたりする岩があったが説明されないと分かりにくかった。

４．感想

今回の研修旅行は、初めての飛行機、初めての海外、そして初めて会う他県の工業高校生、と初めて尽くしで、出発前はとても緊張した。けれど、行ってしまうと友達もでき、様々なことを学び、とても楽しい一週間だった。ベトナムでの一日目は、ベトナムの歴史について学んだり、街並みや雰囲気を感じたりすることができた。学校の社会の勉強では学べないところを深く知ることができたと思う。街並みや雰囲気は、当たり前だけど日本とは全然違っていて面白かった。建物は正面から見ると細長く、奥に広い作りになっていて、隣の建物との距離がほとんどなかった。二日目の工場視察では、日本とベトナムを比較し違いを見つけることができた。発展途上国というのを肌で感じることができた。三日目と四日目の学校訪問では日本の工業高校との違いを学ぶことができ、学生交流では一緒に遊んだり、お互いの国のことや他愛ないことをたくさん話したりすることができた。

ほかに、ホー・チ・ミン廟や一柱寺などの歴史ある建造物を見学したり、バッチャン焼きの絵付け体験をしたり、水上人形劇を鑑賞したりした。ベトナムでの食事はとてもおいしかった。なかでも一番はフォー、二番目は果物がおいしかった。

この一週間、とても貴重な経験をすることができた。この研修で学んだことをこれからに生かしていけるよう頑張っていきたい。最後にお世話になった方々に感謝しています。

06 ベトナム海外研修を終えて

山梨県立峡南高等学校
電子機械科　３年

１．学校見学

①ベトナム日本人材協力センター（VJCC）訪問

現地の学生さんとカルタをしたり、ベトナムの歌を教えてもらい一緒に歌ったりするなど交流を行いました。現地の学生さんは、思っていたよりも日本語が上手で、コミュニケーションを取ることができました。

VJCC　全体の集合写真

②ハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）

HIVCでは、私たちのことを盛大に歓迎してくれました。ベトナムの学生さんは歌やダンスを披露してくれました。とても嬉しかったです。学生さんはとてもフレンドリーで、進んで写真を撮ってくれました。内気な日本人同士では、あまりないことだなと思いました。

現地の学生との写真

③B&S プログラム

日本語を勉強するハノイの大学に通っているベトナム人のアンさんと、一緒にビンコムセンターとその周辺を散策しました。ビンコムセンターは日本でいうところのイオンモー

ルに近い雰囲気で、センター中にあるスーパーマーケットや文具店に行きました。アンさんはとても日本語が上手で、最初は話せるか緊張しましたが、すぐに仲良くなれて良かったです。

２．企業見学

①PLUS 社　ベトナム工場

PLUS 社ベトナム工場では約 2500 人働いていて、Quality を重要視していることが分かりました。一人屋台生産を採用していて、自動機の自社開発をしていることに驚きました。

一人一人がしっかりと挨拶をしていました。「日系企業では、売り上げだけでなく人間も大切にしている。」とおっしゃっていたのが印象に残りました。

②DAI LA 社ホーチミン工場

DAI LA 社は PLUS 社と比べて、真逆と言っていいほど違いがありました。ここでは車のボディーなどを作っていて、ボール盤や溶接、塗装などをしていました。私は電子機械科に所属しているので、ボール盤や溶接が実際に工場で使われているところを見られて良かったです。しかし、やはりベトナムの経済格差の様なものを感じざるを得ませんでした。

３．現地見学

①ベンタイン市場

ベトナムのホーチミン市にある有名で大規模な市場に行きました。前から訪れたいと思っていたので、今回お店の人と値段交渉することが出来て、とても楽しかったです。市場内には果物やお菓子などだけでなく飲食店もあり、とても賑やかでした。

②バッチャン焼き絵付け体験

焼き物が有名なバッチャン村で、絵付け体験をしました。全然上手くできず、たくさんの焼き物一つ一つを手作業で作っている職人さんのすごさを改めて感じました。その様な、素人には簡単に真似できないような技術を身に着けたいと思いました。

③水上人形劇鑑賞

最初、人形劇とあったので日本浄瑠璃の様な難しい感じのものかと思っていましたが、とてもユニークなもので見ていて楽しかったです。どのようにして人形を操っていたのかとても気になりました。

ドラゴンフルーツ

４．感想

初日エアポートレストハウスに集合した時は、緊張と不安と楽しみな気持ちでした。しかし、すぐに打ち解けて仲良くなることができました。今まで「日本では」という視点でしか物事を見られませんでした。これからは、もう少し広い視点で物事を見ることができると思います。そして、いつか世界で通用する人間になるために、勉強と技術を磨いていきたいです。

この研修で私たちをサポートしてくれた全ての人達、最高の思い出を一緒に作ってくれた仲間達に、とても感謝しています。この 1 週間の経験は、一生忘れることがないでしょう。この感謝の気持ちや、感動、経験を多くの人達に伝えていきたいです。本当にありがとうございました。

07 海外研修に参加して

千葉県立京葉工業高等学校
建設科　２年

１．学校見学

ベトナム日本人材協力センター（VJCC）では主にグループ内でベトナムの学生とお互いの国の文化について交流するという内容であり、大まかな流れとしては、双方の代表挨拶、グループ内での自己紹介、お互いの国の印象を 8 つ紙面に書き、交換して質問をし合う、ベトナムと日本の遊びを体験、ベトナム南部の民謡をみんなで歌う、日本側からお礼の歌、記念撮影という内容であった。

日本の遊び体験ではカルタと竹とんぼを行った。日本語のカルタだったのでベトナムの学生の中には苦戦する人もいたが、全員が楽しそうにしていて、笑顔が溢れていた。竹とんぼは高くまで飛ばせる学生が多くて驚いた。また、外で飛ばしたので、グループ内だけでなく他の学生とも交流することができ、竹とんぼをプレゼントしたらみんな喜んでくれたので良かった。

ベトナムの遊び体験では、「鳥かごから抜け出す」というゲームを行った。このゲームには罰ゲームもありみんな盛り上がっていた。罰ゲームは毎回違うようだが、今回はみんなの前で指定された動物のジェスチャーをして、何の動物か当ててもらうというものだった。

ベトナム南部の民謡は「リーカイボン」という民謡を歌った。ベトナムの学生に教えてもらいながら練習した。最初はリズムや独特な発音、言葉も難しくてなかなかできなかったが、最終的には歌えるようになった。私たちからのお礼の歌には「上を向いて歩こう」を全員で歌った。

２．企業見学

私は今回 PLUS 社（日系の企業）と DAI LA 社（ベトナム系の企業）の 2 社を見学した。

① PLUS 社

PLUS 社は文房具を作っている会社で、ビエンホアにある工場では、ホチキス・修正テープ・テープのり・カッターなど、ヌンチャックの工場ではクリアファイル・はさみを作っている。工場内はとても清潔で良い作業環境を作るための工夫がされていた。

［工夫点］

- リーダーの人が誰か見てすぐわかるように制服の色を一部分変えている。
- さまざまな作業の指示が通るようにテレビに映し、チャンネルを変えるだけで全ての指示が確認できるようにしている。
- 同じ失敗を繰り返さないために市場からのクレームの管理表を壁に貼り、間違いをわかりやすくする。

社員の方たちの雰囲気も良く、作業中でも挨拶をしてくれた。特に品質の向上に力を入れていて、お客様からの満足度も高いとお聞きした。

② DAI LA 社

DAI LA社では、建設用機器、車両部品、照明器具、木製アクセサリーなどを作っている。顧客から注文を受け、設計・製造・加工をし、商品を送るところまで行っている。DAI LA社は2009年に設立し今年で10周年になる。この会社はまだまだ成長途中にあり、機械もすべて揃っているわけではないので手作業で賄っている部分もあった。しかし最近は中国から仕入れたレーザーカッター機があるため手作業では加工できない金属なども加工できるようになったということであった。社長の話を聞いていて、成長するのもいいことだが改善しないといけないこともあると感じた。

［改善点］

- 工場内の換気、通風をよくする。
- 各作業場所に収納棚などを設ける、道具が散乱しないようにする他、作業スペースの拡大にも繋がる。

これらのことが改善されるだけで、かなり作業効率が上がるのではないかと思った。

まったく違う扱う製品の異なる2社を見学することで、今まで気がつかないようなことにも気づくことができた。

DAI LA 社内

３．現地見学

戦争証跡博物館は1975年9月4日にホーチミン市に開館された。ベトナム侵略戦争の罪悪と余波についての研究・収集・保管、そして展示を行っており、不義の戦争への反対意識、友好、そして平和保護について世界各国の人々に語り伝えている。館内は3階建てになっていて、屋外にも広い展示スペースがある。屋外の展示スペースには戦車や戦闘機、爆弾などが無造作に置かれており、政治犯が収容されていた部屋や拷問部屋、ギロチンなども当時の残虐な状況を語る写真や、説明書きと共に展示してあった。

戦闘機

今回、時間の都合上、すべての展示を見ることはできなかったが、その中でも私が一番印象に残ったのは、2 階に展示してある子どもたちが描いたエージェントオレンジやベトナム戦争についての絵だった。それらの絵はカラフルなクレヨンや絵の具で描かれてはいるが、内容は当時の事をそのまま伝えてくれていて、戦争後の人々の生活や思いまでもが描かれていて、とても胸が痛くなる作品の数々だった。

この戦争証跡博物館は入場料が1,5000ドン（約75円）と低めに設定されているため、観光客だけでなく現地の人たちを含め、たくさんの人たちにこの博物館に行ってもらいたいと思った。

子どもたちが描いた絵

４．感想

今回のベトナム研修では、様々な場所（企業・博物館・HIVC・世界遺産等）へ見学に行くとともにベトナムの学生とも交流することができ、短期間ではありましたが、ベトナムの文化を直接、肌で感じる良い機会となりました。インターネットや書籍で調べるだけでベトナムを知ることよりも、実際に現地に行き、自分自身の目で見てベトナムという国の空気に触れたことが何よりの収穫であったと思います。現在、私自身が学んでいる建設分野に関してもベトナム文化とフランス文化が融合したモダンな建築物はとても興味深く、

建築と歴史や文化の関係についても、さらに学びたいと強く思いました。今回の海外研修を機に、様々な国に行き文化に触れ、コミュニケーション能力を高めるとともに広い視野を持ちながら、活動しようと思いました。また、海外研修ということ以外にも日本全国から集まった工業高校生や他の学校の先生との関りや、ベトナムの人たちとも関係ができたので国内外に人脈を広げる良い機会にもなったと感じました。この海外研修に参加するために支えてくださった先生方や海外研修でお世話になった団長、引率の先生方、本当にありがとうございました。今回参加できたことに深く感謝申し上げます。

08 海外研修に参加して

東京都立科学技術高等学校
科学技術科　３年

今回、第 19 回高校生海外研修に参加した。全国から集まった工業高校生とともにベトナム社会主義共和国へ行き、研修を行った。

１．現地見学（ホーチミン市周辺）

入国後すぐホーチミン市の市内見学をした。統一会堂、戦争証跡博物館、サイゴン中央郵便局、サイゴン大教会をまわり歴史ある建造物を見て、ベンタイン市場で買い物をした。

統一会堂は南ベトナムの政権時代の大統領官邸を博物館にしたもので、内部には内閣会議室や地下司令室など 100 以上の部屋があり、一部が当時のままの状態で公開されていた。

戦争証跡博物館の前庭にはアメリカ軍が使用した戦車や大型火器が並べられていた。前庭の横には捕虜の監獄があり、ギロチンをはじめとする拷問器具や農薬の影響により生まれた奇形児の写真も展示されていた。また、館内には日本の展示ブースがあり、日本がベトナムを援護する姿を見ることができた。

サイゴン中央郵便局は、南北からの距離が等しいためその名になった。天井がアーチ状のヨーロッパの建築様式で構造は T 字型で、正面の左右には多くの店が連なっていた。正面奥にはホー･チ･ミン氏の肖像画があった。また、はがき・切手を買い、国際郵便で自宅に送ることができた。ベトナムからの手紙に家族は驚いていた。

ベンダイン市場は数多くの屋台があり､服、小物、食品まで様々なものがある。購入時に屋台の店主と値段交渉をして楽しむことができるのも人気の一つ。現地の人は英語だけでなく日本語もできるようで、お店の前を歩くだけで「お姉さん、何ほしい？」など声をかけてくる。交渉すると半額にまで値下げしてくれることもあった。

ホーチミン市周辺の写真

２．現地見学（ハノイ市周辺）

6 日目の午前はハノイ市の市内見学をした。ホー・チ・ミン廟・一柱寺・文廟・ホアンキエム湖・ハノイ大教会をまわり、午後はバッチャン焼きの絵付け体験をし、水上人形劇を鑑賞した。

7 日目は世界自然遺産に登録されているハロン湾クルーズをし、鍾乳洞を見学した。

ホー･チ･ミン廟は 1969 年に亡くなったホー・チ・ミン氏の遺体が冷凍保存によって安置されている。大理石づくりの廟はハスの花

をかたどってデザインされた。裏にはホー・チ・ミン氏が晩年過ごした自宅がある。周辺には、国会議事堂、迎賓館、共産党の本部があり、政治の中心というような感じがした。

一柱寺は1049年、李朝時代に娘しか生まれないことを観音様に相談したところ、ハスの花の上に男の子を置き、養子として迎え入れるといった。それに感謝し、建設された。そのため、ハスの花を模してつくられており、その名の通り、本堂を一本の柱が支えている。

文廟は孔子を祀る目的で1070年に建設された廟。境内にはベトナム最古の大学があり、3年に一度の科挙合格者の名前が刻まれた石碑が並んでいる。元々100石碑あったが、現在は82石碑になった。石碑はすべて亀の背中に乗っており、長く生き続けると言われている。ベトナムでは「亀はまんさい・鶴はてんさい」と称されている。

バッチャン焼きはハノイから約10㎞、ベトナムを代表する陶器の村、バッチャン村で行った。600年前、王様から白土を使い、物を作れと命令されたのが始まり。以前は販売せず王様に献上されていた。作業は親戚の人のみで、6つの工程を分業で行っている。旧バッチャン焼きはトンボ・菊・ハスの柄、新バッチャン焼きは魚の柄が描かれている。

水上人形劇は、水面をステージにして、農家の日常、龍や獅子などを操り人形で演じる。水槽の裏で人が操作している。また、楽器類は二階部分に置かれ、人形の声を演じる人もそこにいた。伝統的な楽器や本物のような動きをする人形たちに圧倒された。

ハロン湾のハロンとは「龍が降りる地」という意味があり、2000者機奇石、8つの鍾乳洞からなる。奇石の多くは名前があるそうで、ゴリラの顔をしたゴリラ岩など、動物の姿に見立ててつけられたものもあり、観察するのが面白かった。船上で味わった海鮮料理は絶品だった。ハノイから車で3時間だったが、時間をかけても行く価値のあるものだと感じた。

ハノイ市周辺写真

３．企業見学

3日目に企業を見学した。午前中には日系企業のPLUS社のベトナム工場を視察し、午後にはベトナム系企業のDAI LA社のホーチミン工場を視察した。1日で企業視察を行うことで、比較がしやすかった。

PLUS社は主に文房具を販売しており、ベトナム工場では修正テープ・デコテープなどのテープ類を生産していた。工場の特徴としては、ビジュアルコントロールでリーダーは襟の色を変えたり、少人数でできるよう機械を自社開発したりしている点だ。また、作業員の方は目が合うと会釈してくれたり、近づくと手元を見せてくれたりと生き生きと作業しているように見えた。

DAI LA社ではほとんど手作業で、オーダーを受けてから材料の調達・加工を行っている。見学時にはドアのもち手部分や図書館の本棚のレールなど注文は多岐にわたっていた。工場にはレーザー加工機や旋盤などが置かれていた。場所ごとに班が分かれているのか、溶接は溶接、塗装は塗装と区切られていた。しかし、部屋などはなくすべて工場内であった。

日系企業とベトナム系企業の圧倒的な差は労働環境だと考える。日系企業はエアコンのついた部屋で椅子に座り作業していた。しか

し、ベトナム系企業では一人一台の扇風機で熱のこもる工場で作業をしていた。日系企業は労働基準法が厳しいから環境に気を付けないといけないとおっしゃっていた。様々な理由があるかもしれないが、私は法令を守ることができる企業の経済力もあるのだと感じた。

４．学校見学

4日目にベトナム日本人材協力センター（VJCC）を、5日目にハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）を訪問し、学生たちと交流をした。

VJCCでは日本の文化の一つである竹とんぼで一緒に遊んだり、ベトナムの南部民謡を一緒に歌ったりと交流を図った。生徒達はみんな日本のアニメや漫画を知っていて嬉しかったが、同時にベトナムの文化などを知らない自分が恥ずかしかった。

HIVC は 5 つの学部 21 学科あり 3500 人の生徒がいる。ハノイをはじめとする様々なコンテストに参加し、ASEAN のコンテストでも高い評価を受けているそうだ。学校では企業の工場と同じ機械を使用することで、就職後すぐに機械を使えるようにしている。ここでも、生徒さんたちは「写真撮ろう」などと積極的に話しかけてくれて、コミュニケーションをとることができてよかった。

交流後の集合写真

５．感想

ベトナムで過ごした 7 日間はとても贅沢なものだった。バイクが大量に走っていたり、路上で食べ物を売っている人がいたり、日本では味わえないことだらけで、私には全てが新鮮だった。日本にはないスコールにはとても驚かされた。雨が降り始めてから 30 分ほどで車高の 3 分の 1 まで水が到達していたこともあった。道路はバイク・車優先なため、横断する際は注意しなければならず、身の危険を感じることもあった。

初日のベンタイン市場や交流会などでは、常にコミュニケーションと主体性が問われているような気がした。市場で買い物をした際、言葉が分からなく、英語とジェスチャーで伝えていたら、「これのこと？」という風にくみ取ってくれて、欲しいものを買えたことがあった。その時私は、発音ができなくても文法がグチャグチャでも、相手へ何かを伝えたいという思いが一番コミュニケーションをとる上で重要だと思った。このようなことは、現地に来てみないと分からないと感じた。

今回、海外研修でベトナムに来て、企業の現状を学んだり、現地学生との交流をしたり、普通の旅行では体験できないようなことを経験でき嬉しく思う。さらに日本全国に友人が出来たことは一番嬉しかった。ベトナムの良さを知ることで日本との違いなどを発見でき、今回の研修で得たものは非常に大きかった。

素晴らしい研修の機会を与えてくださった、学校の先生方や全国工業高等学校長協会、ならびに協力してくださった人々には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

09 一週間の海外研修を終えて

長野県岡谷工業高等学校
電気科　３年

１．学校訪問・見学

今回の海外研修では、大学訪問B&Sプログ

ラムなど学生さんとの交流の時間が充実していました。ベトナムの学生は、明るく気さくで話しやすく、交流の時間があっという間に過ぎた感じがしました。しかもベトナムの学生は日本語が上手く、コミュニケーションがとりやすかったです。英語より日本語を勉強する人が多く驚きました。異文化交流では、日本から持って行った竹とんぼを現地の学生さんに教えながら飛ばしたり、ベトナムの南部民謡を一緒に歌ったりしました。

B&Sプログラムでは一緒に昼食を取り、ビンコムセンターで買い物をしました。現地の学生は日本語を勉強している方が多く、英語が苦手な私達でも、言葉に不自由なく安心して時間を過ごすことができました。

VJCC 訪問

２．「PLUS」工場見学

企業見学では、日本でもなじみ深いPLUSの製造工場を訪問しました。従業員は2500名で工場長は日本の方でした。PLUS製品は普段からお世話になっているので、製造工程などすごく興味を持ちました。社員さんからは「ベトナム発の日本品質の文具を世界へ」と話してくれました。一つの製品が出来上がるまで何人もの手がかかっていることを知り、工場内でも日本の機械を多く使用しているのを見て、日本の技術は海外でも活躍し世界に誇れるものだと感じました。できあがった製品には日本と同じく分りやすい表示がされており、誰が見てもすぐに使えるという工夫がしてありました。

日本の技術者は日本での苦労を生かし製品を作ることで現在があると思いました。そして経験を積み世界で技術者として活躍していると感じました。

PLUS ベトナム工場

３．スコール

雲行きが怪しくなり小雨からあっという間に強く激しい雨に変わるスコール。現地の人は雨が降りそうになると途端に素早く動き出し空模様だけでなく、人の動きからスコールがわかるということも感じることが出来ました。シートに並べた商品を片づけたり、バイクを路上に止め雨カッパを身に着けたりする姿を目にしました。スコールは横降りなので傘を差しても意味がないということ、雨が止むまでは室内で待機することを知りました。中でも、ベトナム滞在６日目には現地の人も驚くほどのスコールが降りました。数十分で車が動かなくなるくらいの雨が降りました。中にはレッカー車を待つ車もいました。

ハノイのスコール

４．感想

今回の海外研修で色々な経験をさせていただきました。企業見学では日本と同じ５Ｓを採用していました。就職を考えている私にはこれらは、世界共通の最低限必要なものだと認識させられました。そして経済発展に繋がる日本の技術は世界に誇れるものと改めて実感することができ、また一緒に過ごした他校の研修生とも交流を図り、刺激を受けることが出来ました。実際に現地へ行くことで、テレビやインターネットでは決してわからない生の〝ベトナム〟を知ることが出来ました。

現地で自分が疑問に思った屋外配線等、今後どのように改善していくのか視野を広げていきたいと思います。学んだことを生活に生かし、見たこと・聴いたこと・感じたことを多くの人に知ってもらいたいと思い、発表することを考えています。7 泊 8 日のベトナム研修はとても良い経験になりました。

この研修に参加するにあたって協力してくださった大勢のみなさんには感謝しています。本当にありがとうございました。

10 ベトナムでの研修を終えて

福井県立坂井高等学校
情報システム科　２年

１．海外研修について

今回の海外研修は全国工業高等学校長協会が主催するもので､今回で 19 回目となります。

今回の研修で行ったのはベトナムでも有数の大都市である、南部のホーチミン市と北部にある首都のハノイ市でした。

研修には私を含め全国の工業高校から選ばれた 22 名が参加しました｡参加者の一人ひとりが高い意識を持ち、今回の研修からより多く学ぼうとしていたことで、終始いい雰囲気のなかで研修に臨むことができました。

今回の研修の目的は、世界で活躍するうえで重要となってくる国際感覚を身に付けるために、国内だけでなく世界にも目を向けることで自分自身の視野を広く持つことにあったと考えます。さらに私はこれに加えて、急速な発展の中にあるベトナムの産業やその文化について学び、国際的には「先進国」とされる日本との違いについて理解することを個人的な目標としました。

２．学校見学と現地の学生との交流

今回の研修では学校見学と現地学生との交流のために、ホーチミンでは VJCC（ベトナム日本人材協力センター)、ハノイでは HIVC（ハノイ工業職業訓練短期大学）を訪問しました。また、B&S プログラムでも現地の学生と交流する機会がありました。今回の研修では現地の学生との交流する機会が豊富に取られていて、ベトナムについての理解を深めるだけでなく、ベトナムから見た日本の姿についても多くを知ることができました。

VJCC

この施設はベトナムと日本が協力して作った人材協力センターで、日本語を勉強しているベトナム人学生との異文化交流を行いました。

初めに行った話し合いではそれぞれ、私たち日本の学生がベトナムの文化や環境について興味のあること、ベトナム人学生が日本の文化や環境について知りたいことや興味あることなどを話し合い、お互いの国についての情報を交換しあいました。さらにベトナム側からは花についての民謡を教えてもらい､「鳥かご」というベトナム独自のゲームも体験することができました。お返しとして日本からは学生一人ひとりに竹トンボをプレゼントし、外に出て飛ばし方などを教え、皆で遊びました。初めて竹とんぼを見たベトナム学生は興味を示してくれて、私たちにとっては当たり前だと思っていた日本の文化も、海外だと新鮮で珍しいものなのだと気づかされました。

ここでは、お互いの文化についての情報を交換するだけでなく、実際に体験することでよりお互いの国に対しての理解を深めることができました。

HIVC

この施設はハノイにある大学で充実した設備が整っており、それは日本の学校に遜色ないほどでした。

ここでもはじめはお互いの国の文化を紹介しあいました。ベトナム側からは、民謡を二曲とダンスを披露してもらいました。日本からは､浴衣やけん玉の紹介と坂本九さんの｢上を向いて歩こう」を歌いました。そのあとの学校見学では電気・電子、自動車、IT、機械学、経済学の五つの学科で使われている部屋やその設備の様子などを見させてもらいました。どの学科の設備も充実しており、特に自動車の学科では本物の自動車が何台も置いてあり、実習などをするときにはこれらの自動車を使うので、より実践的な勉強がここではできていることを知りました。

HIVC 自動車科の設備

交流をしていくなかで、ベトナムで工業を学ぶ学生の中には、将来日本で働きたいと考えている学生も多いことを知りました。しかし、日本語という言葉の壁があるため、なかなか日本に就職することが難しい現状にあることがわかりました。実際に私も学校内でベトナムの学生によく話しかけられましたが、そのほとんどがベトナム語であったため、学生の言っている意味が全く分からないことも多かったです。このことからも海外に出て働くためには、言葉という大きな壁を乗り越える必要があることを実感しました。

ここではベトナムの工業高校の学生たちとの交流や、実際に設備環境の様子などを見てきて、ベトナムの工業科高校の現状を知ることができました。また、学生たちが考えている就職先に日本があがってきたことで、世界から見た日本の技術レベルの高さなどを改めて実感したと同時に、海外に出て働く際の障壁や、外国語を話せるということがいかにアドバンテージとして作用するのかについても身をもって体験することができました。

B&S プログラム

このプログラムでは、日本人高校生 4 人に現地学生 1 人のグループになって昼食を食べた後、デパートを見て回りながら現地での買い物を楽しみながら、学生との交流を行いました。

私たちのグループと行動していた現地の大学生は、今回見て回ったデパートにはよく来ているらしく、まだ 2 年間しか学んでいないとは思えないくらい流暢な日本語で、私たちの目的に合わせて案内してくれました。日本にあるイオンなどのデパートと比べて、今回訪れたベトナムのデパートは人がまばらにしかおらず、ベトナムの人たちは日本と違い気軽にデパートなどに行く人が少ないのかもしれないと感じました。現地の大学生との話では､ベトナムのスポーツについて話しました。ベトナムではやはりサッカーが最も人気のあるスポーツだということが分かり、日本では流行っている野球はベトナムでは全く広まっていないことがわかりました。スポーツ一つをとって見ても日本と海外との明確な違いを感じることができました。ベトナムのデパートを見て回ると、日本の製品が日本語の説明書きのまま売られているところを何度か見る

ことがありました。それは、おそらく日本から輸入されたものがそのまま売られているのだと考えました。本なども日本のドラえもん等が置いてあり、子供たちがそれを楽しそうに読んでいるところを見ると、改めてベトナムが親日国であることを理解しました。こういった小さいことからも、日本とベトナムの結びつきを垣間見ることができ、心が温まる思いがしました。

３．企業見学

今回の研修では、ベトナムに進出した日系企業である PLUS 社ベトナム工場と、ベトナム系企業である DAI LA 社ホーチミン工場を訪問しました。

PLUS 社

ここは、修正テープやテープのり、クリアファイルやはさみといったものを生産している会社で、日本の物作りにおける高い品質を世界の基準とすることを目標として掲げていました。そのために日本の高い品質を保ちつつ、生産工程の効率化を進めるために様々な工夫を凝らしており、その方法の一つとして 100 種類以上もの自動機械を自社開発していました。

また、ここでは問題を早期解決するための方策として「見える化」ということを行っていました。具体的には、作業員の帽子や作業服の色をそれぞれ変えて、機械にはその機械の状態によって色が変わるランプを取り付けることで、誰がどこの担当をしていて、今この機械は稼働できる状態にあるのかということが一目見てわかるようになっており、問題が起きてもその情報を頼りに素早く対処できるようになっていました。

他にも様々な効率化のための工夫がありましたが、そのなかでも私が着目したのは「一人屋台」と呼ばれるシステムです。これは、あえて機械を使わずに作業効率を上げる手法です。基本的にこのような工場では、ベルトコンベアなどを使い、流れ作業のように製品を作ることで効率化を図ることが多いですが、このようにすると一人のミスが全体の遅れになり、一人ひとりの能力の違いによりロスが生まれる可能性がありました。一方、PLUS 社ではこの「一人屋台」を採用し、一人ひとりが手作業ですべての工程をこなして製品を作ることで、誰かの遅れが全体の遅れになることを防ぎ、2 割程度のロスをなくすことに成功していました。

このように、ただやみくもに機械を使って効率化させるのではなく、その仕事にどんな機械を使い、どんな生産システムを採用するかによって、会社の成長に大きな違いが生じているように感じました。

DAI LA 社

この工場は、ベトナム系の工場で創業開始から 10 年程度しか経っていない、まだまだ発展途上の段階にある工場でした。

そのため、機械などの設備がまだ充分にそろっておらず、手作業で仕事をしている人が多いように見られました。さらに、機械を使うにしてもその工程をすべて機械が行うのではなく、その機械を使うための工程までは手作業で行い、機械もプログラミング制御によって自動で動くのではなく、社員自らその機械を操作して作業していました。扱っている機械も外国から輸入したものばかりで PLUS 社のように自社開発している様子はありませんでした。また、ここでは、PLUS 社と似たような金型の作成を行っていましたがほとんどの工程を機械が自動で作業している PLUS 社と比べて、この DAI LA 社では、その作業のほとんどを手作業で行っているため効率が悪いように感じました。

両者を比較したことで、ベトナムでは会社によっての設備や作業プロセスの整い方に大きな差があると感じ、その差が会社自体の大

きな差につながっていると考えました。これからベトナムがさらに発展していくにはこの差をどう埋めるのかが重要になるのかもしれないと思いました。

４．市内観光

私が今回の研修の観光で印象に残っていることは、日本とは全く違うベトナムの街中やそこで訪れたベンタイン市場と、最終日に行ったハロン湾のクルーズでした。

ベトナムに到着した初日の研修では歴史的・文化的スポットへの訪問がメインとなっており、バスで統一会堂や戦争証跡博物館、ベンタイン市場など様々なところを訪れましたが、その時に何よりも印象に残ったのはベトナムの街中である交通についてでした。ベトナムでは日本と違って道路の幅いっぱいにバイクや車が並列して走っており、歩道すらもバイクが走っている光景を見て、とても危険だと感じました。

ベトナムの交通

さらに、ベトナムには信号や横断歩道が少なく、またその信号さえも守らない人が多くいるため、歩行者は目の前を走っているバイクや車の間を縫って道路を渡っていました。私たちも市内を観光するときにそういった経験をしましたが、道路には必ずと言っていいほどバイクが走っているので、いつ轢かれてもおかしくない状況だと感じました。日本はベトナムより交通のルールが厳しくこのようなことは起きないので、日本の交通の安全性などを再確認することができました。

ベンタイン市場では、初めてベトナムで買い物をして、日本とは全く違うベトナムの買い物について学びました。それは、ベトナムでは値切りの交渉を行うことが不可欠だということでした。なぜなら、商人たちは皆、日本人に対して高く商品を売りつけるからです。これはベトナムでは品物ごとに定価が決まっていない場合がほとんどであり、そのものの値段を店主が自由に決めているからでもありました。ベンタイン市場の中では、とても多くの店が並んでおり、売っているものも食材から服、アクセサリーと様々なものが売られていました。そこでも値切りのことが顕著に表れ、市場でモノを売っている人は私たちが日本から来たということを察すると、すぐに声をかけてきて高い値段で売りつけようとしてきました。その中のひどいものでは実際の値段よりも 5 倍近い値段で売ろうとしてきたこともあり、市場で値切りの交渉をする大切さが身に染みてわかりました。ある意味ではこれは発展途上国で生きる人々の強かさであり、バイタリティの表れなのかもしれません。

最終日の 6 日目に訪れたハロン湾は、ユネスコの世界自然遺産にも登録されている場所で、晴れわたる青空のもとで船旅をすることができ、ベトナムの大自然に触れることができました。私はこれまで、船に乗って旅をするという経験が無く、不安な気持ちもありました。しかし、乗ってみると想像以上に快適に過ごすことができ、ベトナムならではの美しい海や山、海面からそびえ立ついくつもの岩などを見ることができ、普段日本で暮らしていては見ることのできないような綺麗な光景に感動しました。また、途中で立ち寄った鍾乳洞は中に入るまでは狭い場所のように感じましたが、実際に中に入ってみると、想像していたよりも広くて驚きました。鍾乳洞は今回初めて行きましたが、暑かった外とは違

って涼しい空間が広がっており、所々に岩の隙間から差し込んでくる日光によってライトアップされている箇所があり、とても幻想的でした。

ハロン湾

５．感想

私は今回の海外研修に参加するにあたり、国際感覚を身に付けるため、国外にも目を向けることで自分の視野を広げること、ベトナムと日本との違いについて理解を深めることを目的として掲げました。

そして今回の研修が終わって振り返ってみると、視野を広げることについては、初めての海外ということもあって、国内でしか暮らしたことがなかった私は多くの刺激を受けることができたと感じます。今まで外国は自分とは縁のないところだと考えていて、新聞やニュースなども日本について述べていること以外の物は気にせずに読み飛ばしていました。しかし、自分で実際に海外を訪れ、自分の目でそこを見たことで、日本とは離れた外の世界を本当の意味で知り、これまで自分とは縁がないと考えていた海外を身近なものに感じることができました。これからは、日本のことだけを気にするのではなく、海外についての情報にも目を向けて考え、よりいっそう国際感覚を磨いていきたいと思いました。

また、ベトナムと日本の違いについて理解を深めることについては、初日からベトナムの交通について衝撃を受けたほか、現地の学生との交流やバスガイドであるマイさんの話を聞いたこと、実際に自分で見て体験したことから多く学ぶことができました。ベトナムは日本と比べ、気候や人の雰囲気、職場の環境など、あらゆる面で違っており、毎日たくさんの発見がありました。例えば都市のインフラの面では、電信柱が少なく、木に電線を巻いているところが多くあり、その電線が店などの建物に触れていそうなところもあったため危ないように感じました。気候について言えば、ベトナムは縦に長い国であるため北部と南部では気候が全く違っていて、北部は温帯で日本と同様に四季がありますが、南部ではいわゆる熱帯型であり、雨季と乾季しかないことを学びました。ベトナムは農業が発達しており、コーヒー豆やゴムの木の他、スイカやドラゴンフルーツなど果物を育てつつ、田んぼでも三毛作をするなど作物の生産を盛んに行っていました。これらの作物はベトナム国内での気候の違いに応じて、地域でそれぞれ栽培しているものが違うことを学びました。これらのベトナムで学んだ多くの発見を日本と比較して考えることによって、さらにベトナムと日本との理解を深めることができたと思います。

今回の研修は、私にとって初めての海外、引率者も含めて見知らぬメンバーばかりであり、初めは不安な気持ちでいっぱいでした。しかし､集まったほかの 21 名の生徒は皆の意識が高く、協調性も高い素晴らしいメンバーに恵まれたため、仲良く面白く研修ができ、2 日目からは不安が消え失せ、楽しい気持ちでいっぱいでした。今回の研修が私にとっていいものになったのは、今回参加したメンバーのおかげによるところも大きいと思います。本当にこの 22 人の工業生徒と 4 人の先生方で研修ができてよかったです。

今回の経験を生かし、これからの学校生活だけでなく、日常の生活においても国際的な視野を意識するとともに、語学力や知識、思考力などのそのために必要な能力をよりいっそう磨いていきたいと思います。

11 高校生海外研修を終えて学んだこと

愛知県立半田工業高等学校
電気科　２年

１．学校見学

ベトナムの大学を見学して思ったことは施設・設備が、日本と比べて充実しているという事でした。学校の敷地の中には自動車のことを勉強するための小さな工場がいくつもあったり、電気を学ぶための大きな実習装置が何台も設備されていたりと、21 学科それぞれに合った設備がありました。日本とは比べ物にならないほど規模が大きく、技術を学ぶには最高の環境だと思いました。また、現地の生徒との交流では歌やダンスをはじめとするベトナムの文化に触れ、言葉が通じない中でジェスチャーや英語、簡単な日本語などを使い、コミュニケーションを積極的にとりました。特に、質疑応答の場では自分達の将来や日本とベトナムの関係などについて話し、自分の将来に繋ぐ事ができるような貴重な話し合いを行う事ができました。

大学の自動車科の実習工場

この学校見学を通し、急激にベトナムの経済が発達している理由がわかりました。それは技術者を育てる施設が作られたところにあると思います。若い人が多いベトナムでは、技術者が増えれば増えるほど国力の向上に繋がると思いました。

２．企業見学

日系企業の PLUS 社とベトナム企業の DAI LA 社を見学しました。PLUS 社では工場の中を見学している時に通り過ぎていく人全員が挨拶や、笑顔で接してくれました。また、会社の考えが「最高の品質をお客様に」という言葉を掲げていたり、材料のリサイクルの事を考えていたりと、とても好感の持てる企業だと思いました。

ベトナム企業の DAI LA 社では、チームワークの高さにとても感心しました。機械に頼ることなく手作業が多い中、お互いに声を掛け合いながら作業をすることで、一体感が生まれ、効率的に作業されていました。製品は手作業にもかかわらず、とても正確に作られており、技術力の高さを知ることが出来ました。

ベトナムは発展途上の国と言われていますが、企業の体制などを見ても先進国に遅れを取らないほどレベルが高い国だと思いました。

DAI LA 社の工場内部

３．現地見学

ベトナムへ行き、文化の違いを感じたのはバイクの数です。道路のどこを見わたしてもバイクで埋め尽くされており、バイクの２人乗りは当たり前で、5 人乗りで運転している人がいるなど、日本では見たこともない光景が広がっていました。なぜ、バイクが多いのか疑問に思い尋ねてみると、バイクは車に比べると非常に安価なため、日本のように１家族で車１台ではなく１人につきバイク１台というのがベトナムの習慣と伺い、国が違うとこんなにも考え方が違うのかということを実感できました。また、技術的な面で印象的だったのが電線の配線方法でした。日本では明確なルールに従って施工が行われていますが、ベトナムでは電線が緩んでいる場所があり、感電しないか心配な部分が多々見られました。また、街の雰囲気も日本とは違い、街中にはフランス統治時代に建てられた迎賓館やオペラハウス、教会など多くのクラッシックな建築物が現存していて、ビルが建ち並ぶ大都市にいるのにもかかわらず歴史を学ぶことができる神秘的な空間が広がっていました。

ベトナムの電柱

４．感想

このベトナム研修に参加した主な理由は、将来の進路を考える際に国内だけでなく世界を視野に入れて働きたいと考えており、異国の文化、技術を学ぶことで選択肢を広めることができると思ったからです。今回の１週間の研修を通して大きく２つ学ぶことができました。1 つ目は国が違っても人の心は変わらないということです。私はベトナムに行く前までは、日本以外は怖いイメージをもっていました。しかし、学校への訪問や企業視察、B&S プログラムなどの時にベトナム人と触れ合い、考え方が変わりました。なれない日本語を一生懸命に使って説明をしてくださったり、緊張をほぐそうと面白い事をしてくださったり、目を見ながら話してくださったりと、とても心温まる人たちであふれており、人の心は素晴らしいと思いました。2 つ目はベトナムの技術力が日本と同じくらい優れているということです。ベトナムは経済力で考えると日本よりは劣るため、会社などは機械が少なく手作業で行っている場面を多く見ました。しかし、手作業が多いのにもかかわらず沢山の工場が栄えており、急激に経済が発達しているところを見ると技術力の高さを物語っているのではないかと思いました。

この研修を終えて、私は将来に向けて１歩前進できたのではないかと思いました。これからもあらゆることに挑戦し、グローバルな社会でも通用することができるよう努力し、将来の夢を実現したいです。

12 ベトナム研修で学んだこと

岐阜県立岐阜工業高等学校
化学技術工学科　２年

１．学校見学

私たちは2カ所を訪問しました。

最初は、ホーチミン市にあるベトナム日本人材協力センター（VJCC）です。班ごとに現地の学生さん達と交流をしました。学生さん達の上手な日本語に驚きました。一緒に「リーカイボン」という南部民謡を歌いましたが、

私にはベトナム語の発音が難しく中々上手く歌えませんでした。しかし、学生さんが優しく発音を教えてくださり、最後には歌えるようになり嬉しくなりました。次にカルタをしました。読み札と絵札の意味を理解しなければならないので、学生さん達にとっても、私達にとっても難しく感じました。皆真剣かつ楽しそうでした。互いに教え合いながら言葉の壁を超えたコミュニケーションがとれ、とても楽しい時間となりました。日本から持参したお土産の竹とんぼでも遊びました。学生さん達は竹とんぼを見るのは初めてでしたが、飛ばし方の見本を身振り手振りで教えると、すぐに理解をして上手に飛ばすことができました。学生さん達が夢中になっていて、すごく楽しそうでした。帰り際に私の所属する部活動で作っている『光るエコ消しゴム』を渡しました。学生さん達が「わぁー！ありがとうございます！」と笑顔で喜んでもらえて私自身嬉しくなりました。日本から直接小さな光（心に笑顔）を届けることができた瞬間でした（『光るエコ消しゴム』は東日本大震災の際、日本ユネスコ協会連盟から『心に笑顔』プロジェクトとして認定されました。それ以降、被災地や発展途上国支援活動の際に『小さな光(心に笑顔)』として届け続けています)。

2ヶ所目は、ハノイ市にあるハノイ工業職業訓練短期大学です。ここでは現地の学生さん達が私達を歌と踊りの披露で盛大に迎えてくださいました。学校の説明ではここには3500人もの生徒さんがいて、日本の工業高校と同じように、電気電子・IT・車の技術・機械技術・経済などを学んでいるということで知りました。自動車の技術では、アジア大会に出場し、金メダル・銀メダルを獲得した実績のある高い技術を持った学校でした。学校内視察では、各学科のそれぞれ専門的な技術を学ぶために必要な設備・装置が整っていることがわかりました。今ベトナム政府が人材育成に力を入れているということもあり、これから先、工業を学び高い技能を持った学生さん達がベトナムでの工業を発展させ、世界の工業発展も支えていっていくのではないかと感じました。この話を聞き、私ももっと頑張らなければいけないと思いました。私は化学技術工学科に所属しており、昨年、ものづくりコンテストの化学分析部門に出場しましたが、県大会出場まででであまり良い結果を残すことができませんでした。今回の学校訪問を通して、自分が好きな化学という分野で、もっと高い技術を磨き、実績を残していきたいと気持ちを新たにすることができました。

現地の学生さん達に消しゴムを渡して

２．企業見学

2社を訪問しました。

1社目はPLUS社ベトナム工場という日系の企業です。ここでは、主に文房具（修正テープ・テープのり・はさみなど）の開発・製造を行っていました。スタッフは2500人もいる大企業です。工場内には、100種類以上の自動機があり、3000種類もの製品を作っているそうです。より使いやすく便利な文房具を自動で製造するために、自社でオリジナルの機械を作っているという話を聞き、驚きました。製品を作る際に射出成形し組み立てると当然捨てるプラスチックの部分が出てきますが、その部分を再利用すると聞き、少しでも環境に優しくなるような工夫がされているのだと

感じました。部活動で環境に優しいものづくりに取り組んでいる私にとっても共感できるものがありました。

2社目はDAI LA社ホーチミン工場というベトナム系の企業です。この工場は2009年に設立され、今年で10周年を迎えた企業です。主に、建設業の部品など日本からオーダーされたものを製造しているそうです。自動機はなく、ほとんど手作業で製品を製造していました。工場内にエアコンはなく所々に扇風機があるだけだったのでベトナムの暑さと機械から出る熱で、立っているだけでも汗が噴き出してくるような状態でした。日系企業との労働環境の違いを目にし、ここで働いておられる方々の苦労を身に染みて感じました。また、この工場に行くまでの道のりは大変で、道が舗装されていないところもあってかなり揺れて大変でした。今までは都市の中心部しか目にしてきませんでしたが、そこから少し離れた場所の状況も知ることができました。

３．現地見学

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争について学ぶことができました。ベトナム戦争の期間は長く、約20年間も続いていました。館内には沢山の写真があり、当時の兵士、民間人の状況、暮らしなどを写真から感じ取ることが出来ました。特に印象に残っているのが戦争に巻き込まれた民間の人たちです。米軍や南ベトナム軍によって撒かれた枯葉剤（除草剤の一種)により､ダイオキシン類が発生し、非常に強い毒性を示し、催奇性の物質によってしょう害のある子どもが生まれてきた写真を見ました。見ているだけでも辛くて、強く胸を打たれました。普段から私たちの部活動でダイオキシン問題などにも取り組んでいます。お土産として持参した『光るエコ消しゴム』は、市販されている消しゴム成分中のダイオキシン問題の可能性を含む成分を安全な成分に変えています。今まではなんとなく『環境に優しい』とだけ思ってものづくりをしていたのですが、ダイオキシンの恐怖を現実に知ったことで、私たちの活動の重要性を再確認しました。また、改めて戦争の恐ろしさを知ることもでき、これから先、再び起こしてはならないものだと思いました。帰国後はこの現実を日本の人達にも伝えなければならないと思いました。

また、博物館の周りの塀には、子供達が描いた平和を願うポスターが沢山飾られていたり、平和の象徴である鳩の絵や像があったりしました。この見学を通して、多くの人が戦争について学び、いまでも苦しんでいる人がいるという状況を知るということが大切だと思い、また、平和な世界にしていくために、国同士仲良くしていくことが一番の近道だと思いました。私自身が世界に目を向ける良い機会になりました。

戦争証跡博物館で撮影した写真

市場では、買い物を通して現地の方と交流することが出来ました。初めは言葉が通じるか心配でしたが、お店の人から近づいてきてくださり、驚いたことに日本語で話をしてくださいましたが、一度話してしまうとなかなかその場から離れることは出来ず大変でした。そのようななかでも欲しかったものも見つかり、そして値切るために交渉をするなど、日本では中々経験できないこともできて、楽しい経験ができました。このように異文化につ

いて学ぶことが出来ました。

バスでの移動中外を見ていると、信号は少なく、道路を走るバイクや自動車が我先にと急ぐ強引さに驚きました。特に道路の白線のないところでは、自分勝手に運転していたので、クラクションが鳴り響いていました。日本では見られない光景でした。電線にも驚きました。日本では、電線が絡まらないよう工夫がされていると思いますが、ベトナムは何10本と束になっていて、中には切れている電線もあり、停電などの被害も出ているのではないかと心配になりました。また、現地の人も驚くぐらいのスコールが降り、道路が川のようになってしまい、自動車やバイクが浸水していたので、改めて水の恐ろしさを実感しました。

バスの中から撮影した写真

４．感想

このベトナム研修に参加したことで、自分の視野を広げる良い機会になりました。ベトナムへ行く前の自分と今の自分では変わった部分があると感じています。日本との学校や企業、環境や文化の違いなどたくさんのことを学ぶことができ、日本にいるだけでは気づかない、当たり前だと思っていたことが海外ではそうではないという現実を知ることができました。逆に、丸亀製麺やすき家、イオンなどの日本企業も多く進出していたことに驚きました。また、この研修では多くの人たちと関わる場面がありました。日本国内から集まった22人の学生達､引率してくださった先生方､そしてベトナムで出会った学生の方達、企業の方々など様々な人と出会えて本当によかったと思います。この研修で学んできた事を今度は自分の部活動、学校、そして、部活動で開く構座の時間などを利用し地域へと広めていけるような活動をしなければと思いました。特に今、私たちの部活動で行っているカンボジア支援活動では、今まで直接カンボジアを訪問することはできず、カンボジアを訪問される方に託したり､NGOの日本事務所の方にお願いしたりと間接的な活動にとどまっていました。そんな私にとっては、隣国のベトナム研修のお話をいただいたときは期待感でいっぱいでした。話で聞いていた交通に対してのルーズさ、スコール、現地の方々の優しさなどを実際に見たりして経験ができて本当に良かったと思います｡ベトナム研修で、直接訪問して肌で感じることの大切さを学んだことで、発想が1歩ステップアップしたような気がします。これからは直接訪問することはなかなか難しいと思うので、スカイプを活用するなどして、より密着した活動に発展させたいと思います。

私たちでもできること！

私たちだからできること！

ボランティアに卒業はないので！

をスローガンにこれからも頑張りたいと思います。

最後になりましたが、この研修に携わってくださったみなさん、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

13 ベトナム研修に参加して

静岡県立浜松工業高等学校
理数工学科　２年

１．VJCC、HIVC訪問

VJCCとHIVCの学生と交流し、ベトナ

ムの学生たちの日本への興味関心の高さに驚きました。多くの学生が日本語を勉強し、将来は日本へ行き、工業の知識や技術を学びたいという強い意志を感じました。

２．PLUS 社ベトナム工場、DAI LA 社工場見学

PLUS 社では先進的な施設や技術を、DAI LA 社ではベトナムの工業が発展途上である現場を見ることができました。様々な点で異なる 2 社を視察したことで、ベトナムの工業の現状を知ることができました。

VJCC の生徒との交流

３．ハノイ市内見学

B&S プログラムにより、現地の学生の案内で、ハノイ市内を散策しました。フォーや春巻きなどハノイ料理を食べたり、ショッピングモールで買い物をしたり、ベトナムの生活を体験することができました。

４．感想

日本よりも高温多湿のホーチミンに到着した時、日本とは違う独特の熱気を感じました。初めての海外ということもあり、見るもの全てが新鮮で、感動的でした。日本を外から見ることで、私たちの恵まれた生活や日本の技術力の高さなどに改めて気づくことができ、自分自身成長できたと思います。

14 国際交流に参加して

京都市立京都工学院高等学校
プロジェクト工学科　３年

１．学校見学

ハノイ工業職業訓練短期大学を見学した。機械工学、電気電子、自動車、経済、IT の分野に分かれていて、加工機械や自動車の塗装など様々な設備が揃えられている。就職先で即戦力となるために、日本企業の工場でも導入が多いという、最新のロボットアームがあった。教室にはエアコンが無く、作業着を着た時、暑さに耐えられるのか心配になった。私の高校の環境の良さに気づいた。

短大の生徒からは、ベトナムの若者の間で流行している音楽とダンスで歓迎していただいた。ノリのいい音楽で会場の固い雰囲気が和らいだ。また、中学生も参加していて、手拍子で盛り上げたり、写真撮影をしたり、一緒ににぎやかに学校見学を楽しむことができた。彼らに私の趣味である、折紙の花やコマを渡した。一人に渡すと、周りも欲しい、欲しいという反応で、喜んでもらえたようだ。だが、こめられた意味を説明したかったのに、できなくて後悔が残っている。

校長同士の挨拶や質問コーナーは、通訳の時間でかなり長く感じた。英語など共通の言語をお互いが習得していればもっとスムーズに話は進むだろうと、英語を学ぶことの重要性を再認識した。

２．企業見学

修正テープやはさみを主に販売している文具メーカー、PLUS の Bien Hoa 工場を見学した。Bien Hoa 工場では射出成型でパーツが作られ、組み立てまでを行う。ホチキス針の製造も行われている。デコラッシュは私が小学生の頃から好きな商品で製造される瞬間を見ることができて感動した。最大五色の色分けが可能なタンポ印刷機など高性能な機械や、

すべての部署にエアコンがついたり、時々スタッフで会話したり、良い環境で働ける場所だと思った。組み立て機械の自社開発、事業計画やクレーム内容の見える化など、スタッフの意欲を保つ工夫が多くあり、参考にしたいと思った。

ベトナムを含め海外では、商品を放り投げて雑に扱うことが多いそうだ。しかし日本ではパッケージに傷がついているだけで販売できないこともある。そこで、丁寧に扱うように促すシールを貼ったり、そういう話をしたりするそうだ。商品に求められる新品レベルが違う海外で、日本の品質を維持することはとても大変だとわかった。

DAI LA という金属加工の会社も見学した。今年で 10 年目になり、来年には工場を新しくするそうだ。中国製のレーザーカッターや日本メーカーのプレス機など様々な機械が揃えられていた。溶接、塗装なども行われていた。見学した日は汗が止まらないほど蒸し暑かったため、この工場では作業する一人一人のそばに扇風機を置いて対策していた。だが、クーラーがあって当たり前の生活をしている私からは、この環境で熱中症になるのではないかと心配になった。日本から発注を受けることが多いそうだが、部品を安価に抑えるために海外に発注するのはよくあることとはいえ、相手が良い環境を構築できるだけの金額を払うべきだと感じた。

３．現地見学

ベトナムの町並みは日本とはまるで違った。看板の色はカラフルで、バイクの数は驚くほど多く、クラクションの音が頻繁に聞こえていた。日本食はベトナムで人気があるそうで、日本料理店や牛丼チェーン店を時々見かけた。ベトナム料理は野菜と香辛料が多く使われている。代表的なベトナム料理のフォーはシナモンの香りが強く、驚いた。好みで唐辛子を入れられるが、ひとかけら入れただけでとても辛くなり、少し後悔した。しかし入れる前より、さらにおいしく感じられ、唐辛子の食欲増進効果を初めて実感した。

土産物店では「カワイイ」「ヤスイ」と日本語で話しかけられることがほとんどだった。海外で聞き覚えのある言葉を聞くと、安心感から買ってもいいかな、という気持ちになるので、上手いなと思った。

ドンコイ市場はカラフルな布製品やアクセサリー、フルーツなどが売られていた。市場では値段が相場よりも高く、値切ることも多いらしい。だが、慣れない通貨の初めての買い物で委縮して、値切り交渉などとてもできなかった。また行く機会があれば今度こそ挑戦したい。腕を引っ張って引き止められ、買わない意思を強く示す必要のある店もあった。しかし日本にはない鞄や雑貨などをたくさん見ることができて、買い物はとても楽しかった。

４．感想

ベトナムでの様々な経験は、全国の工業高校生と話したことも含めて、とても楽しく有意義な時間を過ごせた。私は海外に出るのが初めてで､料理の味はどのようなものかなど、不安に思うこともあった。しかし、日本では経験できないことを経験するたびにベトナムの国民性や文化、また、私が気づいていなかった日本の良さについても知ることができた。日常の環境とは全く違う場所で過ごすことで、自身の長所や短所について考えるきっかけとなった。今回の研修で、私は工場見学や学生との交流を通して、ベトナムという国の成長力を感じた。私も国際的に通用する人間になるため、更に専門的知識を身に付けるなど、努力が必要であると考えた。

15 海外研修に参加して

堺市立堺高等学校
建築インテリア創造科　２年

１．学生交流

VJCC（ベトナム日本人材協力センター）で異文化交流をしました。私たちは竹とんぼを教え、現地の方からは鳥かごというゲームを教えてもらいました。また、寿司や着物などの日本の文化やバイクやスポーツの話で盛り上がりました。短い時間でしたが、貴重な体験をする事が出来ました。

VJCC の学生と記念撮影

B&Sプログラムでは、日本ではアカネさんと呼ばれているベトナム人の学生と同じ班になり、市内観光など一緒に行動している際にお互いの夢や今の学校の様子を話しました。アカネさんは将来通訳になるために日本語と英語を学んでいます。歳が近いアカネさんの頑張りに私自身大きな刺激を受けました。

２．企業見学

日系企業である PLUS 社のビエンホア工場を見学しました。ここでは修正テープやホッチキスなどが作られており、様々な工夫が行われています。例えば一つの文房具を作るために部門を幾つかに分け、帽子の色を変えることで部門が一目で区別ができ作業効率が上がります。特に私が驚いた事は工場内の機械自体も自社で作っていることと、市場クレームを無くそうと工場内のホワイトボードでクレーム内容が共有されている事でした。これらの結果として高品質に繋がっているのだと感じました。

３．現地観光

戦争証跡博物館ではベトナム戦争の悲惨さがよくわかりました。米軍がまいた枯葉剤の犠牲になった人々の生々しい写真や結合双生児のホルマリン漬けが戦争の悲惨さや残酷さを物語っていました。人が人を無差別に殺していたという事実に恐怖を感じました。実際に戦争で使われていた戦車や戦闘機の展示もありました。

戦争証跡博物館にある戦闘機

本やネットで調べた内容と実際に目で見た内容とでは恐ろしさが全然違いました。戦争で多くの命を亡くさないために戦争を繰り返してはいけないと感じました。平和とは何か、世界が平和になるためには何が必要かを考える機会となりました。

４．感想

この研修に参加して多くのことを学びました。企業見学や学校交流などたくさんの貴重な体験ができ、多くの刺激を受けました。現地の人と話してみてジェスチャーを交えて伝わる時もありましたが、話した英語が伝わらない時も多く自分の英語力の乏しさを実感したと共に、もっと英語を勉強したいと思いました。

16 ベトナム海外研修を終えて

神戸市立科学技術高等学校
機械工学科　３年

１．学校見学　VJCC・HIVC

(1)VJCC（ベトナム日本人材協力センター）

ここでは両国の文化について学んだ。お互いの国のイメージについて話し合い、日本からは､かるた･竹とんぼ･｢上を向いて歩こう｣の歌の披露を行った。VJCC からは、簡単なゲームや「リーカイボン」という民謡を一緒に歌った。このゲームは日本でいう椅子取りゲームのようなものだった。民謡は、ベトナムの小さな子供たちが歌うそうだ。私は民謡を歌えるようになるまでに時間がかかり、とても難しかった。この学校は日本語を学ぶ学校で、一緒に交流した現地の学生さんたちはみんな日本語が上手く日本語で会話することができた。たくさん市内観光も行ったが、直接現地の学生と触れ合えたこの交流が一番楽しく、ベトナムの文化について知ることができた。この交流のおかげで外国の方と触れ合うことに興味を持つことができた。

交流した現地の学生さんと

(2)HIVC（ハノイ工業職業訓練短期大学）

ここは工業を学ぶ学校だ。学科は本校と変わらないようだった。ここには、自動車の仕組みを知るための車・バイクや、溶接機・自動溶接機、電子機器、安全について学ぶ施設等があった。ベトナムでは技術者の人数が少ないそうで、ここの学生さんたちの進路は豊富で活躍する場面がたくさんあると聞いた。

２．企業見学　PLUS 社・DAI LA 社

(1)PLUS 社

この会社では、テープのり・修正テープ・ファイル・針なしホッチキス等が製造されている。日本でもおなじみの製品は世界中で販売され大人気である。日系企業の PLUS 社は工場内の設備も整っており、中には現地の従業員が知恵を出して考えて作られた機械がいくつもあった。日本の工場と同様に安全区画として越えてはいけない白線が床に引かれているが、あまり厳しくはないように感じた。日本の工場とは違い、ここではみんなが楽しそうに働いていた。働いている方は女性が多く、特徴としては体調のすぐれない従業員や妊婦の従業員等をサポートするために工場内にモニターが設置されていた。この会社では社員が大切にされていて、このような環境で僕も働きたいと思った。

日系企業PLUS社

(2) DAI LA 社

この会社は現地資本の企業である。ここではレーザー加工や溶接、塗装等が行われていた。ここで溶接された一部の製品は日本でも使用されているそうだ。日系企業と比べると建物や施設などの設備は十分なものではなかった。ここは男性従業員だけで、若い方から年配の方までが働いていた。工場は暑さで厳しい環境だと感じたが、従業員の方々はとても楽しそうに働いていた。

３．現地見学　戦争証跡博物館・ハロン湾

(1)戦争証跡博物館

ここに展示されている写真はベトナム戦争の悲惨さを物語っていた。手足が切断され、生まれたばかりの子供にも体に異常が現れていた。うまく歩くことができない人や、障害を持った人もいた。ベトナムだけでなくアメリカも同様であった。想像できないものだった。戦争の辛さや影響を知り、一番印象に残った見学先だった。写真のほかには、実際使用されていた武器、起爆しなかったミサイルの弾、戦車も展示されていた。

(2)ハロン湾

私が一番楽しみにしていた場所で、想像よりもはるかに大きな岩々やきれいな海が広がっていた。

見学前にスコールが降り心配だったが、雨はやみ晴天になり、きれいな景色を見ることができた。途中でハロン湾の中にある鍾乳洞に入った。鍾乳洞には、地上の光が差し込んできれいで神秘的だった。海上で食べた海鮮料理もとてもおいしかった。時間がとても短く感じ、また行きたいなと思った。

世界自然遺産　ハロン湾

４．感想

私が一番楽しかったことは、VJCC や B&S のような現地の学生さんと交流したことだ。たくさん話をして質問できたことで、直接日本とベトナムの違いを感じることができ、そして楽しかった。この交流で外国の方と会話することに興味がわいた。現地の観光では美しい建物や風景を見るだけでなく、ベトナムの歴史的な部分について触れながら見学することができた。また、日本では起こることがないスコールを体験した。スコールで道路は車が半分くらい浸水していた。想像よりも大量で激しいもので、スコールの規模には驚いた。また、訪問したベトナムの街は日本と比べ交通量が多く、特にバイクが利用されていた。バイクは歩道を走ったり信号を無視していたりしているため事故も多いそうだ。

一緒に研修に参加した日本のメンバーにはとても仲良くしてもらい一週間の旅程中、何の不安もなく楽しく参加できた。多くの友人ができ一生の財産となった。

私はこの研修で新しい課題を見つけることを目標に参加した。今回の海外研修を通し、日本だけでなく海外にまで視野を広げるべきと思った。また、海外の方と話すことで多くの文化や人々の暮らし方を学び、たくさんの価値観がある事を知ることができた。そして、海外で活動するためのコミュニケーションツールである英語の大切さを知った。残りの高校生活では英語の学習を意識して取り組みたい。そして、今後海外旅行やチャンスがあれば仕事で海外に行き工業の分野で挑戦し経験を積み重ねたいと思った。

17 ベトナム研修を経て

山口県立萩商工高等学校
機械土木科　２年

１．ハノイ工業職業訓練短期大学訪問

ベトナム研修５日目にハノイ工業職業訓練短期大学を訪問した。この大学では JICA（国際協力機構）やベトナム政府の積極的な投資を経て最新の機器などをそろえ、充実した教育環境を整えていた。この学校を訪問した時に最も驚いたのは第二次産業における安全面を学ぶ学科があったことだ。よく自分の高校では安全面の配慮の重要性を教えられるが、よりその重要性を認識することができた。この大学の多くの生徒は外資系の企業で働くことを希望しているという。しかし、言語が大きな壁となっているらしい。やはり外国語を話るようになった環境にいて良かったと思う。

ハノイ工業職業訓練短期大学での集合写真

２．plus 社ベトナム工場訪問

ベトナム研修三日目にplus社のベトナム工場を訪問した。この工場では、日本、ベトナム国内、アジア、北米、ヨーロッパに向けてホッチキスや修正テープなどの文房具を製造している。

この文房具などを製造する過程で、この工場では一人屋台制が一部で取り入れられていた。一人屋台制とは、「コ」の字型の作業台が一人の作業者を囲み、作業者が一人で製品を完成させる生産方式である。従来のライン式に比べて、一人で作業をするので、ライン式で起こりうるような他の作業の遅れに影響されずに生産ができ、需要に応じた製品の生産数を柔軟に対応することができ、生産効率の高い生産方法だと言える。しかし、この一人屋台制を実現させるには、一人あたりの作業範囲が広くなるため、作業者には大きな負担がかかる。これを可能としている工場の作業者は高いスキルレベルを持っていると言える。そのほかの生産方法として完全自動化で生産をしている物もあった。やはりどの分野においてもこれからはIT産業が重要な役割を果たすと思った。

この工場で一番驚いたのは、現地の従業員に日本品質の製品を作ることが意識付けられていたことである。しかもそれだけでなく、礼儀なども正しく、日本のおもてなしの精神も身についていて、世界に日本の「心」のようなものが大事にされていてうれしく、誇りに思った。

plus 社での集合写真

３．ベトナム戦争証跡博物館訪問

研修の二日目にベトナム戦争証跡博物館を訪問した。館内に入る前から実際に戦争で使用されたであろう戦車やヘリコプターが展示されており、大きな圧迫感があった。普通、戦争といえば一昔前の出来事のように思われるが、たったの四十四年前までこの戦車やヘリコプターが使われていたのだろうが、想像がつかない。館内に入ると、アメリカがベトナム戦争で枯葉剤を使ったことによる影響で生まれた奇形児の写真や、銃で打たれて死んだ一般市民の遺体の写真など目をそむけたくなるようなものが多かった。しかし、「百聞は一見に如かず」という言葉があるように実際に見てその現実と向き合うことで戦争の本当の恐ろしさを知ることができた。

ベトナム戦争証跡博物館外観

４．感想

一つ目の感想は、先ずほんとにこの研修に参加できてよかったと思う。将来は海外で働きたい僕としては海外について知らないことが多かったから学ぶことも多かったし、なにより海外で暮らすうえで必要な感覚を少しながらつかむことができて自分の夢をより具体的なものにすることができた。

二つ目の感想は、ベトナムに行ったことで外国語を身に着けることの重要性をより感じることができた。飛行機の乗務員はもちろんホテルの従業員もみんな英語を話すことができて、中には日本語も話せる人もいて英語を話せる人は世界でもどんどん増えていて、そうなるといずれは英語を話せるのが当たり前の世界になるはずだから、僕が就職するときなどに、より存在価値を高めるには三か国語は話せるようになりたいと思う。

三つ目の感想は、英語や国際感覚を学びたければベトナムじゃなくて他の国でもよかったが、僕の夢はフィリピンにいた経験を活かし、少しでも発展途上の国の人々の生活を豊かにしたいというものだ。だから発展途上のベトナムを訪問することでこのような国では今、どのような問題があるのかなどを知れた。例えばベトナムでは公共交通機関があまり普及しておらず、バイクでの通勤、通学が主でこれには渋滞や大気汚染、事故の多さなどの問題が伴っている。やはり日本で育った僕からすれば不便なこともあったし、今回の訪問ではベトナムのお表向きの景色を見てきたが、裏には病気や貧困に苦しむ人は日本に比べてかなり多いと思う。こうやって貴重な経験をさせともらったからにはこの経験が活きるように、僕の夢を叶えれるようにこれからも日々、勉強に励みたいと思う。

最後にこんな貴重な経験をさせてもらえた研修を主催してくださった全国工業高校長協会や引率してくださった先生方を始め多く方に支えてもらい感謝しています。ほんとにありがとうございました。ほんとに良い経験ができたのでこれからも多くの学生に同じ経験をしてもらいたいのでこの海外研修がこれからも続くようお願いします。

18 ベトナム研修に参加して得たことや楽しかったこと

岡山県立倉敷工業高等学校
工業化学科　３年

１．学校見学

ベトナム日本人材協力センター（VJCC）を訪問して感じたことは、予想以上に現地の方たちが日本語の勉強に力を入れていたことで

す。日本人でも知らない言葉なども知っており、逆に私たちが教わる感じでした。VJCC では、工業国家を目指すベトナムと、活発な企業進出をしている日本とが、社会や文化についての相互理解を目指して、日本語教育など様々な事業を行っているそうです。

交流会ではベトナム民謡の曲「リーカイボン」の歌い方や「鳥かご」を教えてもらいました。「リーカイボン」は VJCC の方に教えてもらい上手く歌えるようになりました。「リーカイボン」とは花についての民謡です。歌詞の中に青、黄、白い花や梨、ザクロの花などのたくさんの花たちが出てきました。「鳥かご」では 2 人 1 組になりカゴを作り、別の 1 人は鳥になります。そして鳥かごの中にいる鳥たちは近くの鳥かご（隣の鳥かご以外）をめがけて飛んでいき鳥かごに入りそれで鳥かごの人は鳥役の人が入ってきたら、かごを閉じます。その時、鳥かごに入れなかった人たちの負けです。３回目で罰ゲームです。私たちがした時の罰ゲームは尻文字でした。

ベトナム日本人材協力センター（VJCC）訪問

２．企業見学

企業見学では、PLUS 社、DAI LA 社の 2 社を見学させていただきました。

PLUS 社では、文房具を作っており、かの有名な 30 度の角度で切れるハサミを作っている日本の企業です。ベトナムの工場で作られていたのは修正テープやテープのり、ホッチキスやホッチキスの針などでした。

その生産性はとても効率化されており、手作業でできるところは手作業で行い、機械には難しいことをやらせて作業を明確にしていました。日本にある工場もこのような感じになっているか気になりました。

企業訪問　PLUS 社

DAI LA 社はベトナムの家具や注文された家具を作り出荷している会社です。溶接や加工などをして組み立てる作業が全体的に多い会社でした。労働環境はまだ日本の企業に比べるとまだ及ばない部分もありましたが、会社内の雰囲気はとてもよく、社員の方もとても明るく働いている姿が印象的でした。

３．現地見学

市場に行き、何よりも物の多さに驚きました。観光客を相手に商売をしているベトナム人が多いことが印象的でした。市場では値下げ交渉がよくされていました。しかし値下げ交渉が上手くいく人もいますが、上手くいかない人もいました。市場の独特の賑やかさに圧倒されました。一方でベトナムにはサークル K サンクスもあり、こんなところまで日本の企業が進出していることに驚きました。

４．ハロン湾、鍾乳洞

ベトナムが誇る世界自然遺産のハロン湾を見学しました。大小様々な奇岩が静かな海面から突き出ていて、海の柱林の様でした。ハロンと言う名は、ハ＝降りる　ロン＝龍を意味していて、昔外敵からの侵略に悩まされていた時、湾に龍の親子が降り立ち敵を打ち破

り宝玉を吹き出しそれが奇岩となり敵からの侵略を防いだ、と言う話もあり驚きました。深いエメラルドグリーンの海で 1994 年にユネスコの世界自然遺産に登録されています。

鍾乳洞では歩いて観察したり写真を撮ったりしました。ライトアップもされていて、天の光も差し込んでとても幻想的でした。

ハロン湾

５．感想

今回のベトナム研修では、1 週間というとても短い期間でしたが､自分を含めた 22 人が皆仲良く協力し合い、とてもよい研修ができました。現地ではあらゆることが新鮮で、ベトナムと日本の様々な点で違いが大きすぎてカルチャーショックも起きました。

例えば日本の交通機関は自動車が主流ですが、ベトナムではバイクが主流であることがわかりました。ベトナムの人たちは、1 人 1 台バイクを持っていてバイクは日本でいう自転車のような感覚でした。

現地の人とのコミュニケーションがとれたことも自分にとって大きな収穫でした。

帰りに PLUS 社の袋を持っていたら日本にいたベトナム人の方に話しかけられ、電車の中でベトナムについて話したりしました。

今回の研修でとても貴重な体験ができました。日本に流通している製品は、海外の工場で作られ、身の回りでグローバル化が進んでいることを目の当たりにしました。今やものづくりは海外の生産拠点も視野に入れておかなければならず、徹底した効率化が求められていることがわかりました。しかし、どんなに工業化が進んでも人の手が関わる分野があるということもわかり､製品の完成度は結局、作る側の人にかかってくるということも理解できました。

日本で日ごろ何気なく使っているハサミや修正テープが、日本に関心を持ってくれているベトナムの方が誠実に作っていることがわかり、大切に使っていきたいという気持ちになりました。

そして短期間とは言え、私たちを親切に迎えてくださった現地スタッフの皆さんのように、日本を訪れた外国の方に優しく接していきたいです。

この体験や気が付いたことを、今後の学校生活や将来の仕事に活かし、日本だけではなく海外などに目を向けていきたいと思いました。

最後になりましたが、このような研修の機会を与えてくださった、全国工業高等学校長協会の方々をはじめ、現地の方々、ご指導いただいた先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

19 ベトナム研修に参加して

松山聖陵高等学校
建築科　２年

１．学校見学

7月24日、TRONG CAO DANG NGHE CONG NGHIEP HANOI（ハノイ工業職業訓練短期大学）を訪問しました。この短期大学は、ハノイ市の市内に位置しており非常に便利な場所にあるため国際交流がしやすいです。日本とも国際協力しており6月に熊本の工業短期大学と交流したりしていました。この大学の生徒数は約3500人で学部は、電気電子・IT・機械・経済・自動車の5つの学部があり21学科あります。インフラは最新の設備が整ってい

るため様々なコンテストに参加したりしていて、その中でもASEANのコンテストで高い評価を受けています。ベトナムが急な経済成長をしている理由は、平均年齢が31歳ととても若く、今のベトナムは若い人中心になっているので経済はどんどん発展しているのだと思います。

ハノイ工業職業訓練短期大学

２．企業見学

7 月 22 日　PLUS 社（ベトナム工場）を見学しました。PLUS 社は、中国・上海などアジアに拠点工場を構えているという優位点を生かし、グローバルビジネスの拡大を目指す企業です。PLUS 社で主に製造されている物は私達も身近によく使っている修正テープ・ホッチキス･クリアファイルなどの文房具で、この企業は修正テープが一工場における出荷数量世界 1 位になり次なる 1 位を目指すために頑張っている工場です。ベトナム工場は世界への物流の中心地でもあり、従業員の数は約 2000 人で､その中でも若い女性の従業員が多かったです。品質の良い製品を作るために人材配慮、報奨制度、充実した食堂メニューなど働く環境にも配慮したりしていました。また、従業員には日本の文化や日本で求められる品質を知ってもらうために日本の研修制度も取り入れたりしていました。工場はすごく広く敷地面積30,300平方メートル建物面積11,000 平方メールあるそうです。工場の中は何個かのフロアに分かれており、その中でも部品を間違わないように 1500 以上もの商品がある中すべてサンプル化されていました。また、機械も常に最新の物があり、新しい部品を作るために機械開発等も行われていました。世界規模の工場は常に次の解決策を考えていてすごいなと思いました。

7 月 22 日　DAI LA 社（ホーチミン工場）を見学しました。この会社はドアノブやインテリア商品を作る会社で、オーダーを受けて材料確保から設計までをする会社です。PLUS 社とは違い室内ではなく外での作業だったのですごく暑いところでした。また、最新の機械設備はなく、ほとんどが手作業でした。より良い製品を作るためにあまり適さない環境ではあったけど、あの環境で集中して作業ができるのはすごいなと実感しました。

３．現地見学

7 月 21 日　戦争証跡博物館を見学しました。ベトナム南北統一をめぐっておきたベトナム戦争は、実際にベトナム国内だけで 200 万人以上の人々が犠牲になりました。この悲惨な過ちを二度と繰り返してほしくないという願いを込め、ベトナム戦争に関する写真や保管物が展示されています。

ベトナム戦争

この中でも特に心に刺さったのは拷問室です。拷問室では子供大人構わず様々な方法で拷問されていたのですごく心が痛くなりました。日本は積極的にアメリカにベトナムから

手を引けなどと呼び掛けていてすごいなと思いました。戦争の怖さが改めて分かりました。

7 月 25 日　ホー・チ・ミン廟を見学しました。ベトナム民族解放と独立のために南北統一に生涯をかけた、今もベトナム国民の父として愛されるホー・チ・ミンの亡骸が眠る場所です。廟は、バーディン広場の奥にあり、1973 年から 1975 年にベトナム全土から集められた自然の素材を用いて建造されました。訪問する際は、ノースリーブやハーフパンツなどの肌の露出は NG でした。また、カメラなどの手荷物検査は思った以上に頑丈なもので警備の人たちも若い軍人で歩き方までそろっていてホー・チ・ミン廟の大切さが伝わりました。

7 月 26 日　ハロン湾クルーズを楽しみながら見学しました。下龍湾と書いてハロン湾と呼びます。ハロン湾は 1994 年に世界自然遺産に登録されました。水の色はエメラルドグリーンではなかったですが濁っていなくて凄くきれいでした。無数に見える岩は石灰石からできていて、自然が作り出した色々な形の岩が船から見えました。一つの湖にあれだけの無数の島ができるのはすごく貴重だなとおもいました。自然の力はすごいなと改めて分かりました。

ハロン湾

４．感想

この研修を通して思ったことはベトナムと日本では全く考えが違い、すごく面白いと感じました。一番の驚きはバイクの多さです。日本では絶対にありえないバイクの量と道路状況を見ることができ、すごく驚かされました。また、市場でのお買い物体験は貴重で、「ディスカウント」というと値段を下げてくれたりして、そこも日本では体験できないことを体験できてとても勉強になりました。ベトナムの文化で有名なのが「アオザイ」という衣装です。アオザイは色鮮やかで、ベトナム人はとてもスタイルがいいのでお店に行くたびに見とれていました。ベトナム料理は、パクチーを主に使っていて特に味が濃いや味が薄いなどはなかったのでおいしかったです。また気候は変わりやすく急に雨が降ってくるので、車が水没したりと普通にあるとちょっと怖いなと感じました。

最後に、この度の高校生海外研修で得ることが出来た経験や、今後長く付き合う事になるだろうツアー仲間達など数多くの貴重な財産を、今後の学校生活や社会生活に是非活かしたいと思います。ありがとうございました。

20 海外研修を通して学んだこと

鹿児島県立加治木工業高等学校
工業化学科　３年

1．HIVC 訪問

HIVC(ハノイ工業職業訓練短期大学)には3,500名の生徒が在籍しており、大きく分けて電気電子、IT、車、機械工学、経済学の5学部に分かれていて、さらに細かく分けると21学科ある。HIVCの校舎内には、普段、自分たちが学校で使用している機械だけでなく、初めて目にした機械がたくさんあり、中には車やバイクが数台ある広い車庫等もあった。また、日本の工業大学、高校を参考にしており、将来は日系企業に就職したいという生徒も多いという。そのため、日本の学生と国際的な交流を行っており、外国語レッスンの授業もある。

車やバイクがある学校内の車庫

2. PLUS社　ベトナム工場視察

『見える化(ビジュアルコントロール)』を徹底しているPLUS社内の工場では、役職や仕事内容ごとに帽子や制服の色を変えたり、作業員全員に見えるよう改善計画を壁に張り出したり、同じ失敗を繰り返さないように客からの細かいクレームを掲示したりなど、生産効率を向上させるための工夫や、問題点を分かりやすくするための工夫が多く見られた。また、作業員のモチベーション向上させるために表彰状を見える場所に飾るなど、顧客の満足度だけではなく工場内の作業員の満足度を高める工夫も見られた。

文房具を生産する PLUS 社のエントランス

3. ベトナム歴史博物館

ベトナムの歴史を象徴するような貴重な書物や、石造がたくさん展示してあったが、ケースも付けずにその隣で平然と工事を行っている様子がとてもベトナムらしいと感じた。ベトナム歴史博物館のなかでも初めてみた本物のミイラはとても衝撃的だった。また、ガルーダ頭像やチャンパ文化等を見てベトナムの歴史の深さを感じた。そして、長い年月をかけて数を増やしていった民族たちの種類は今や54種類にまで増えており、いかにベトナムの文化が他国からの影響を受けているのか気づかされた。

ベトナム歴史博物館

4. 感想

初めてのベトナム研修を通して、日本との意外な共通点や相違点など、日本にいては気づかなかったことがたくさんありました。日本に比べて発展途上の部分も多く、DAI LA社ホーチミン工場視察では、配線が断線していたり、機材が安全性を欠いた状態で置かれていたりと工業高校生としての視点で見ると、とても危険な作業環境だと感じました。優れた技術をもっていても設備が追い付いていないのがとても印象に残っています。

素晴らしい技術をもったベトナムと、整った作業環境をもった日本がお互いに学び合えるように、日本の工業に関わる一人として日本とベトナムを繋ぐことのできる人財になれるよう今回の研修で学んだことをより多くの人に発信していきたいと思います。とても充実した7日間のベトナム研修になりました。ありがとうございました。

21 ベトナム研修を通じて

大分県立鶴崎工業高等学校
電気科　３年

１．企業見学

7 月 22 日、プラス株式会社ベトナム工場を見学しました。PLUS 社では、人件費の削減や効率の向上のためにロボットによる製造ラ

インの自動化を推進していました。そのロボットを開発する技術者の方から、低コスト化に重点を置いて開発を進めなければならないと伺い、開発という仕事がどれだけ大変かを実感しました。また、PLUS 社内はどの生産部門においもエアコン等による徹底した空気調整や勤務時間外での労働は一切行わないという規則を設けるなど、日本よりも労働者が働きやすい環境づくりが進められており、驚嘆しました。現在、日本では働き方改革を推進し、長時間労働や待遇差の改善に向けて対策などされていますが、現状は浸透率が低いとのことです。その為、PLUS 社のような労働者のことを考えた企業が日本でも増えてほしいと思います。

プラス株式会社ベトナム工場前での集合写真

２．ベトナム人学生との交流

7 月 23 日、ベトナム日本人材協力センターを訪問しました。ここは、将来日本で働くことを目指すベトナム人の教育を目的とした学校です。ここでは、グループに分かれての交流会や日本とベトナムの文化交流などを体験しました。文化交流は昔ながらの伝統的な遊び、日本からは「カルタ」、ベトナムからは「鳥かご」という人数集めに似た遊びを紹介し合いました。参加者は、日本とベトナムの国境を越えて、談笑も交えた和やかな雰囲気の中で行われ、積極的に質問することもでき非常に良い経験になり、加えて良い親睦が出来ました。そんな中、何故日本で働きたいのか質問をしたところ、学生全員から「お金持ちになれるから」という回答が返ってきました。ベトナムの平均最低賃金は日本円にして時給 100 円と日本の約 8 分の 1 程度ということを知り、このままではベトナムから優秀な人材が国外に流出してしまうのではないかと危惧しました。また、ベトナム人学生としては自身が持つ夢に向かって、是非、頑張ってもらいたいと思います。

交流会で出会ったベトナム人学生

３．学校訪問

7 月 24 日、ハノイ工業職業訓練短期大学を訪問しました。ここは 5 つの科に分かれており、それぞれの科には最先端技術を兼ね備えた実習装置などの設備が整っており、日本の工業高校より恵まれている環境に驚きました。なぜこんなにも環境が良いのか現地学生に質問したところ、現在ベトナムでは国をあげて技術者の育成を目指してして、若い世代の人材確保に力を入れており、その為各地で工業系の学校が次々に設立され、工業を学ぶ生徒が増えていることを知りました。日本より若手人口が多いベトナムでこんなにも恵まれた環境の中、技術力を身に付けていけば、日本よりも工業力が進むのではないかと考えずにはいられません。少子化の影響で技術者が減少している日本のこれからを考えれば、少人数での技術力のみでは、対抗できなくなるため、プラスアルファとしての応用力や問題解決能力などの思考力、判断力などを身に付け

ることが大切だと思いました。また、ベトナムで高い技術を身に付けた方には、是非、今年の 4 月から外国人労働者の受け入れ拡大を開始し、グローバル化が進む日本に、工業の発展の為にも、働きに来て欲しいです。

４．現地見学

研修中は企業や学校だけでなく、様々なところでベトナム文化を体験しました。その中から二つのことについて書こうと思います。

・戦争証跡博物館

7 月 21 日、戦争証跡博物館に行きました。ここではベトナム戦争の残酷さ、悲惨さを実感しました。館内にはベトナム戦争時を写した写真が多数展示してあり、私はそれらの写真を見る中、私の中で特に印象に残った写真があり、それはアメリカ軍が侵略する際に撒いた毒性の薬剤が原因で先天的障害を持って生まれた新生児を写した写真です。何の罪も無い子供たちが、犠牲にならなければならないのか。今一度、戦争に対して真剣に考えさせてくれる貴重な時間となりました。

・ハロン湾

7 月 26 日、世界自然遺産に指定されているハロン湾を訪れました。石灰岩からなる無数の島々が神秘的で幻想的な景観を生み出し、非常に魅了されました。また、鍾乳洞の見学では、気が遠くなるような歳月を経て自然が偶然生み出した鍾乳石が作り出すスケールの大きさに圧倒されました。

ハロン湾での集合写真

５．感想

この一週間は私にとって非常に充実した時間になりました。国境を越え、異文化間の交流を経て、様々なことに気づき、そして、学び、新たな価値観を持つことが出来ました。また、初めての海外ということもあり、私の視野を広げることができ、私は大きく成長しました。これから、グローバル化された時代を生きるにあたり、まず私自身が内向き志向を変えていかねばなりません。そして、それぞれの国が自国の発展だけ考えるのではなく、技術力の相互交換によってと共存共栄できる真の工業技術社会の構築に貢献できるような国境を越えた仕事をしたいと思っています。私にとって貴重な経験をさせていただき、大変感謝いたしております。

22 ベトナムの「今」を見てきて

宮崎県立佐土原高等学校
電子機械科　２年

１．学校見学

・ベトナム日本人材協力センター（VJCC）

VJCC は、ベトナムの学生が、日本について学んでいる機関で、ここでは、現地の学生とゲームや歌などを通して交流した。ゲームでは、日本語でカルタ取りをして、彼らが積極的に日本語でコミュニケーションをとっているところに驚いた。

・ハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）

ベトナムの工業系の学校についてまったくイメージを持っていなかったが、実際に現地の学校を見学することで、いろいろなことに気付くことができた。溶接ロボットや、NC 旋盤、さらには安全教育のコーナーもあり日本の学校と同じように学べる環境があることを理解した。また、韓国企業が支援している自動車整備の設備、日本からの旋盤実習の設備もあり、海外からの支援も充実していることがわかった。

ハノイ工業職業訓練短期大学(HIVC)正面

２．企業見学

・PLUS 社　ベトナム工場

PLUS は日系企業で、日本の有名な文具メーカーで、この工場ではテープのりや針のいらないホッチキスなどの製品を生産している工場であった。この工場は、「５Ｓ」活動をしている工場で、日本と同じような品質管理をしていた。日本にある工場をそっくりそのままベトナムに持ってきたような工場であった。見学ルートには、不良品を目に見える場所に掲示した品質管理の工夫がされ、機械を自分たちで作るなど生産技術向上のための工夫がところどころに見られた。

また、工場内は、床にごみは一切落ちてなく、理由を聞いたところ、作業者が進んで片づけをしているとのことで、清潔に保たれていた。

・DAI LA 社　ホーチミン工場

この工場はベトナムの企業で、図書館の書庫のレール部分の部品や、エアブレーキのタンクなどを製造していた。中にはたくさんの工作機械があり、溶接、静電塗装などの加工が行われていた。一般的な現地の工場の様子を理解することができた。

また、日本製の工作機械も多数あり、日本のメーカーの普及が実感できた。

３．現地見学

・ホーチミン市内

空港に降り立ってから暑さと活気に圧倒された。ホーチミン滞在中の 3 日間はどこも暑かったように思えた。思ったのは道幅に差が大きく、裏路地に入ると道がすぐ狭くなってしまい、私たちが乗った観光バスも通るのが大変であった。

サイゴン大聖堂

ベンダイン市場を班で見学をした。初めての海外の市場で買い物をし、値段の交渉など英語を使ったコミュニケーションを体験した。

また、移動中に 2021 年完成予定のホーチミン市地下鉄の建設現場を見ることができ、慢性的な渋滞のあるベトナムの新しい交通手段に期待できると思った。

・ハノイ市内、B&S プログラム、ハロン湾

B&S プログラムで現地の大学生の人と一緒にいろいろなお店に行き、ベトナムコーヒーやお土産の買い物をした。日本と値段の違いがどのぐらいになるか予想がつかなくなる一面もあったが、学生さんに物価の違いについて教えてもらい無事に買い物ができた。

伝統文化の体験として、水上人形劇の鑑賞と、バッチャン焼きの絵付けの体験を行った。水上人形劇は、もちろん全部ベトナム語でしたが、言葉がわからなくても動きで内容が理解でき、とても面白かった。バッチャン焼きは、日本の焼き物にも似ているほか、絵が特徴的で、ベトナムでは幸福のシンボルであるトンボや国花でもあるハスの花などの絵が描かれあった。私も絵付けをしたが、とても難しく、線の太さや色の濃さをコントロールするのが大変だった。しかし、焼くときれいに仕上がっており、納得がいく焼き物が作れた。

世界遺産であるハロン湾は、きれいに晴れ

て景色もよく印象に残った。船で島に近づくと、切り立った崖と岩肌が見え、日本にはない景色で感動した。

話は変わるが、滞在中にベトナム料理、中華料理、ベトナム風フレンチなど東南アジアのいろいろな食事を楽しむことができました。特に気に入ったフォーは、毎日朝食に食べました。とてもおいしかった。

ハノイはベトナムの首都で、政府関連の建物も多数みることができた。また、ホー・チ・ミン廟、一柱寺、文廟、ホアンキエム湖、ハノイ大教会などの観光地を訪れることができました。先に訪れたホーチミンより街並みが整備されていたが、ちょうど街中で大雨が降り突然冠水した道路で故障する車もあった。雨の多い国ですが、まだ排水のシステムが出来上がっていないように見えた。

冠水したハノイ市内

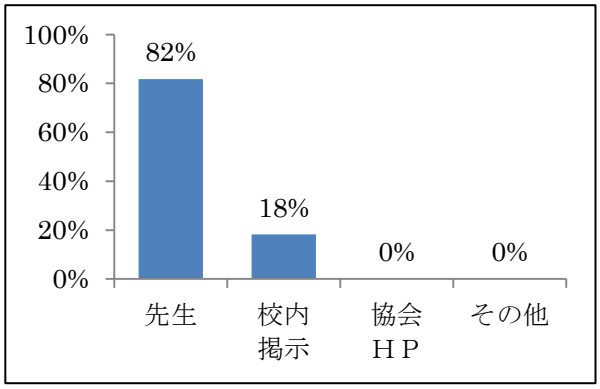
４．感想

今回の研修で、ベトナムの工業、都市、文化について深く知ることができた。

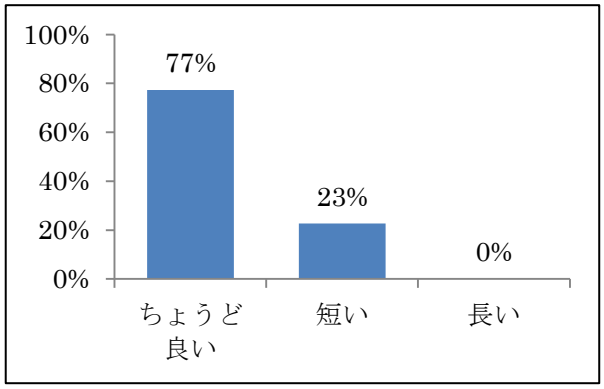
ベトナムに進出している企業や、現地の企業を見学し、ますます工業について学ぶことの重要性について認識した。ベトナムの街は、バイクは多く、道路は渋滞していた。ホーチミン市では、地下鉄の工事を現在やっており、工業を通じて国が発展しているところを見ることができたことがとても有意義だった。東南アジアの同じような国の工業化が進むことで、交通状況が改善するものと思った（実際にベトナムに行ってみると細い路地が多く、現在はバイクのほうが便利というのを実感した）。私は将来、交通渋滞などの解決策として日本の鉄道技術を海外に広げ、その国の発展に貢献したいと考えている。そのために工業についてもっと深く学びたいと思う。語学については、滞在中にベトナム語で話せるようになればよいと思い、ベトナム語の挨拶を覚えていった。「こんにちは」を表す“Xin chào”「ありがとうございます」を表す“Xin cảm ơn”を、行く先々で使ってみた。また、ベトナムの学生は日本語を使って我々と交流しており、高い語学力に驚いた。私も工業の分野だけではなく国際共通語である英語力を高め、国際感覚を持った人を目指したいと考える。

８．アンケート結果

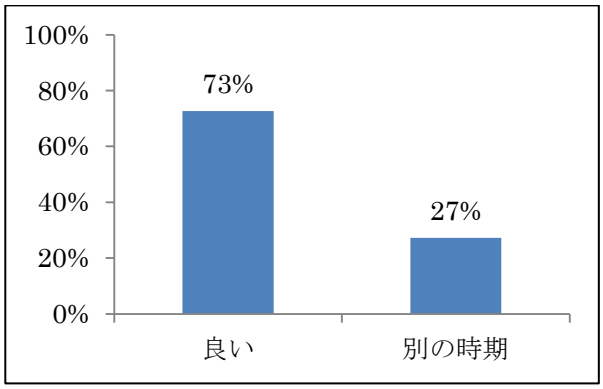
１．海外研修はどこで知りましたか？



２．期間（7 日間）はどうでしたか？

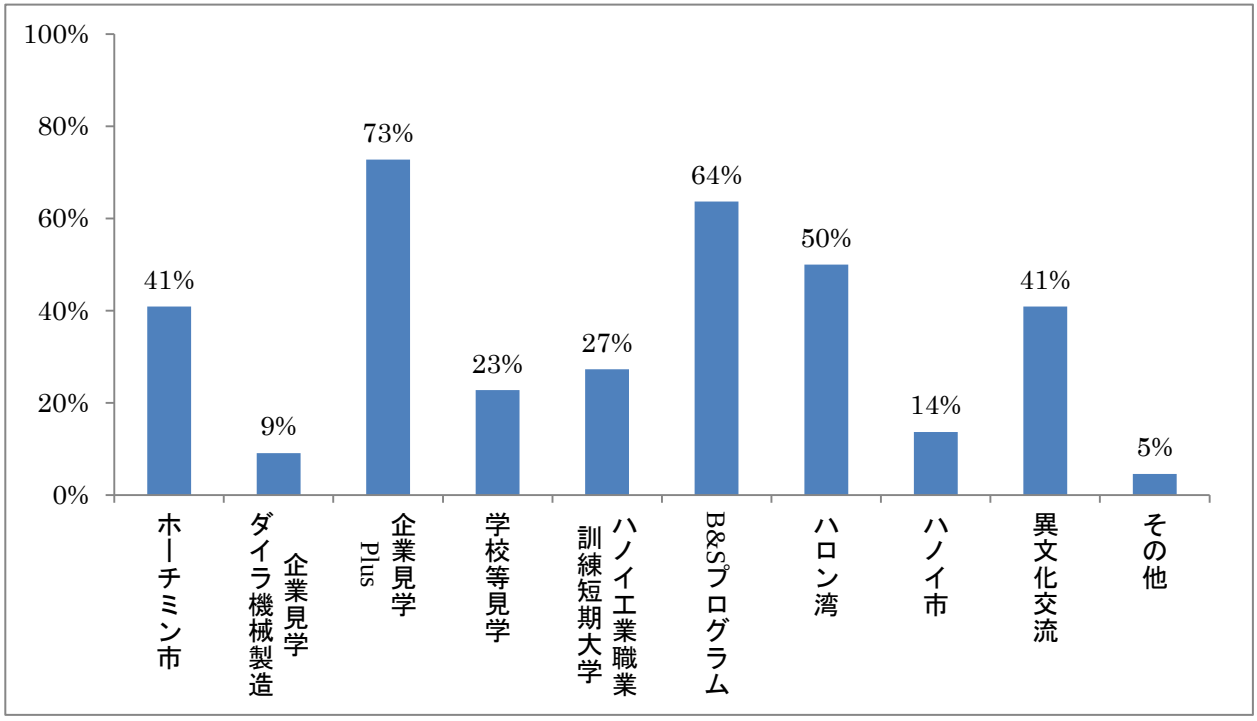


３．時期はどうでしたか？



【別の時期】4 月頃希望―1 人、9 月頃希望―1 人
10 月頃希望―2 人、11 月頃希望―1 人、3 月頃希望―1 人

４．訪問先で良かったところをお答えください（複数回答可）　※次ページに訪問先ごとの感想



―① ホーチミン市について

□テレビで見ていたような市場などにふれ、実際に現地の雰囲気や文化を感じることができた。
□戦争証跡博物館で、悲惨な戦争の様子をたくさんの写真で知ることができた。
□ベンタイン市場をもっと見たかった。
□市場の人々と交渉するのがたのしかった。
□日本では見たことないような街並みで楽しかった。
□ベトナム戦争について、当時の兵隊、民間人の人たちの様々を、写真を見て学ぶことができた。
□戦争についてたくさん学ぶことができてよかった。
□市場は人生にとって大事な体験だなと思いました。たのしかったです。

―② 企業見学（ダイラ機械製造貿易有限公司）について

□日本企業との違いを実際に見て確かめることができた。
□日本と比べて安全設備が少ないように感じた。

―③ 企業見学（Plusベトナム工場）について

□日本で実際に多くの人たちが使用している製品の製造を間近に見ることができ、良い勉強となった。
□工場の中を見させてもらったのはすごいと感じた。
□日系企業の進出力と教育がすごかったのと、たくさんのお土産をもらった。
□ベトナムの会社の様子がよく分かった。
□一人屋台など知らなかったことが知れた。
□日本の会社だったので見やすかった。文具系の見学は良いと思う。
□ベトナムにある工場で日系の企業を訪問し、文房具を作っている工場の機械をじっくり見学することができた。
□作業しているところも見ることができ、日本で体験できないことを体験した。
□日本で販売する商品だから、高品質を維持する必要がある。ベトナム人に丁寧に扱ってもらうのが大変ということが知れた。
□将来は海外で働くという夢をもっていたので、見学をすることによりビジョンが明確になった。
□とても勉強になるお話をしていただき、とても分かりやすく説明してくださった。
□自動化を目指しており､その工夫を知れた。

―④ 学校等見学

□おたがいに国の文化を知り、交流することで､相手の文化を身近に感じることができた。
□もっとベトナムのことを聞きたかった。
□日本語を学ぶ現地の学生とゲームや歌を歌ったりしたことが楽しかった。
□ベトナムの工業の教育についての最先端を見ることができた。

―⑤ ハノイ工業職業訓練短期大学について

□ベトナム人の学生さんとたくさんコミュニケーションをできた。
□ベトナムの学校ではどのような機械があるのか学んだ。
□ベトナムの人の印象（日本についての）をきけたのがとてもよかった。
□初めて現地の方との交流ができ、とても良い経験ができた。
□良かったが、ちょっと人が多すぎてよく分からなかった。

―⑥ Ｂ＆Ｓプログラムについて

□一緒に買い物をすることがないのでとてもよかった。
□これからもずっと関係を続けたいと思う人と会えたのでとても良かった。
□現地の学生さんとの交流しながらのショッピングがよかった。
□現地の大学生の方と食事をしたり、ショッピングをしたりなど、楽しく交流ができた。
□ベトナムのことや、日本で働きたいという夢を教えてもらった。ビンコムセンター自体は高級な店が多かった。
□すごくいい人でたくさん夢について話していたので、自分もがんばろうと思った。
□現地の人の生活や、聞きたいことをしっか

り聞けて良かった。
□個人だったので質問がしやすく、ベトナムの方たちがどのような考えをしているかなどいろいろ分かってよかったです。
□日本語（時には英語も）で話しながら、ショッピングモール内や周辺を案内してくれた。
□ベトナムについてのたくさんの質問ができて、とても充実できた。

―⑦ ハロン湾について
□鍾乳洞や景色がきれいだった。
□鍾乳洞に感動した
□とてもきれいな景色を見た。久しぶりの海で楽しかった。
□景色がとてもきれいで海の色ともすごく合っていた。小さい船にあまり乗ったことがなかったので楽しかった。
□初めて鍾乳洞にいって、景色に感動した。
□絶景と、鍾乳洞のすばらしさに感動した。
□鍾乳洞が幻想的でとてもよかったです。
□世界一美しい場所を見ることができ、大変感動した。
□良かったけど、少し遠い。

―⑧ ハノイ市について
□ホー・チ・ミンさんのお墓のでかさに驚いた。
□ショッピングするところも多く、きれいな建物も多くあった。

―⑨ 異文化交流（バッチャン焼き）
□純粋に楽しかった。初めて焼き物が有名なのだと知れた。
□バッチャン焼きは絵をかくのが好きなので楽しかった。
□皆で絵付けをするのが楽しかった。
□デザインを自分で考えられたので自分の望むようなものができた。
□その地域ならではの文化体験が良かった。
□ガイドさんがバッチャン焼きについての歴史を話していて、それがすごくよかった。
□ベトナムにて、とても良いお土産になった。

５．意見・感想
□今回の海外研修では、ベトナムの文化や言語、そして、物づくりや日本に対する考え方など、多くのことを学ぶことができました。実際に目で見て、身体で感じることができたのは、とても貴重な経験となりました。
□ハノイ市内の観光では、今の学んできた建築ではとても不思議な設計をしていて、とても興味深く、参考になりました。
□現地の人との交流は学ぶことが多く、身近に感じることも多かったです。交流を通して、言語の違いの難しさや、相手に伝えることの大変さ、伝えるためにはどうしたらよいのか工夫をする、考えることも学びました。
□歩道をバイクが走っていたり、信号を守らなかったり、日本とは違うことも多く学べました。
□この７日間は私にとって良い経験となり、とても良い思い出となりました。この研修で出会った人たちとの感謝やきずなを忘れず、学んだことを生かし、伝えていきたいです。
□今回の海外研修でベトナムの実態を知ることができました。行く前のイメージより行った後の印象が良くなりました。
□ベトナムの学生さんは、ベトナムの経済成長について、日本との協力関係が深いからと言っていた。ベトナムと日本の関係は想像以上に深い関係にあることが分かりました。
□この経験をふまえ、これから社会に貢献できるように勉強を頑張りたいと思いました。
□初めて会う人とベトナムに来て研修を行うということに不安しかなかったのですが、だんだん打ち解けることもできて、とても楽しい７日間になりました。
□ホーチミンとハノイの２つの都市を巡り、ベトナムの文化や自然を身をもって感じることができたということは、今後の日本での生活や就職後に生きてくると感じました。
□体調は途中から悪くなってしまって、少しつらかったですが、この経験を忘れずに過ごしていきたいです。
□私はインテリア科として参加して、バスか

ら街を見るだけでも、たくさんのデザイン性のある建物を見ることができて良かったです。そこからも、植民地時代の影響を感じました。
□街中に日本語を話せる人が多くて少し安心しました。外国語に対する意識が高いのだと思いました。私も英語を話せるようにがんばりたいです。
□とても暑かったですが、すごく濃い一週間で、これからの自分の人生に深く関わるぜいたくな時間でした。このような時間をくださり、ありがとうございました。
□１週間とても楽しく学ぶことができた。
□企業見学では、日系の会社とベトナムの会社の違いを見ることができた。２つの会社を比較して、良い点と悪い点について学ぶことができた。
□Ｂ＆Ｓプログラムでは、ベトナムの学生さんと積極的に交流することができた。
□異文化交流では伝統的なバッチャン焼きの絵付けを体験した。みんなの個性がでていておもしろかった。
□初日、エアポートレストハウスに集合した時は緊張と不安と楽しみな気持ちとたくさんありましたが、すぐに打ち解けて仲良くなることができました。
□体験したこと全てを書ききれないので、自分が一番感じたことを書きたいと思います。それは、世界はとても広いということです。今まで、「日本では」という視点でしか見れなかったものが、日本に帰ったら、もう少し広い視点で見ることができると思います。そして、いつか世界で通用する人間になるために、これからの勉強と技術を磨いていきたいです。
□この研修で私たちをサポートしてくれた先生方を始めとする全ての人に感謝すると共に、最高の思い出を一緒に作ってくれた仲間たちに本当に感謝します。この一週間の思い出は一生忘れることはありません。本当にありがとうございました。
□ベトナムにある工業高校を見れたのは良かったが、自分の分野を見れなかったので、そこは残念だった。
□ホーチミン市やハノイ市は都会で自然をあまり見ることができなかったので、ハロン湾に行く途中の道で牛やアヒル、水田や畑などたくさん見れたので良かった。ハロン湾での絶景もとても記憶に残るものとなった。
□ハノイ工業職業訓練短期大学では、学生たちが一緒にいる意味があるのかと思った。
□Ｂ＆Ｓプログラムはビンコムセンターである必要があるのかと疑問に思った。もっと単価が安いところのほうが、おみやげが買いやすいと思った。
□この経験を活かせるように頑張りたい。
□期間はあっという間だったけど、ベトナムの文化を体験することができたし、現地学生さんとの交流もできたので良かった。
□もっと暑さ対策をすればよかったなと思う。
□自分の行動など積極性は強くなったと思う。
□今回の海外研修では、全員が初対面なので、初日はとても緊張していましたが、皆がこの研修を良いものにしようとしてくれたので居ごこちが良く、初の海外でも楽しく過ごすことができ、１人１人が意識を高めていくことの大切さを改めて考えることができ、このメンバーでずっと学んでいきたいと考えました。
□この１週間ベトナムの文化や技術を学び、とても貴重な体験ができたと思いました。
□ベトナムに行く前までは、とても怖そうな国というイメージがありましたが、学校や企業の見学ではみんながやさしく接してくれて、固定観念だけで物事を判断するのはよくないと思いました。
□技術面ではまだ日本より劣っていますが、人々の活力あふれる生活や、一生懸命努力して夢を実現しようとする強い気持ちがある人が多くいて、先進国といわれるのにそう時間がかからないのではないかと思いました。
□企業見学では、日系企業とベトナム企業を見学し、一致点と相違点を見つけることができた。
□学校訪問では、学生さんたちと交流したり、遊んだりなどして、異文化交流ができた。
□参加した全国から集まった学生さんたちと

たくさん話して、仲良くなれて嬉しかった。
□古くからの建造物、自然、民族などなどたくさんの視点から見て、ベトナムを学ぶことができ、とても勉強になった。
□とても充実した１週間でした。この学んだことを自分の中だけで終わらせず､帰ったら、家族、全校のみんな、地域の人達に伝えていきたいです。本当に楽しかったです。この研修に参加してよかった。
□たくさんの企業に行ったり､観光をしたり、ベトナムの良さや課題がとても分かりました。
□２つの企業でも様子が大きく異なり、すこし驚きました。発展している企業は、日本と変わらない技術がありましたが、未発展の企業は、日本とは程遠い技術・環境で、とても苦労しているのだと思いました。このような企業に対して、日本のすべきことを考える必要があると思いました。
□観光ではベトナムの文化、習慣が見えた場所ばかりで、とても学ぶことができました。そこで学んだものを日本で活かせるように努力していきたいと思います。
□約１週間の研修でしたが、学ぶものは大きく､この経験を将来に活かしたいと思います。
□参加している人が全員、意識が高かった。他の人がメモを取り始めるのをみて、気付くことも多く助かった。
□ベトナムに入国して最初に思ったことは、看板が大きくカラフルだったこと。あとは匂いや暑さ、すべてが日本とは違った。
□Ｂ＆Ｓプログラムで会ったベトナム人のアカネさんの夢を追う姿がかっこよくて、私もアカネさんのような夢を追い続けている姿勢をまねしたいと思った。市場の人や学生と交流すると自分の英語の話す能力のなさが身にしみて感じました。帰国したら英語の話す能力の向上に努めていきたいと思う。
□研修が始まる前は期間が長いと思っていたけど、皆と仲良くなりとても短く感じた。
□この研修では、外国人と係わることの楽しさ・面白さを学び、英語力をつけて、また海外に行きたいと思った研修でした。
□特に楽しかったのは、現地の学生とふれったことです。現地の文化を少しだけど知ることができたし､とても良い経験となりました。
□高校の内に海外に行けるチャンスなんて無いかと思っていたが、今回の研修に参加できて、自分の夢をより明確なものにでき、どのような仕事を海外でできるかなどがわかって良かった。ベトナムの文化に触れることができ､１週間の非日常を体験できて楽しかった。より海外で働きたいという夢が強くなった。
□Plus 社はベトナムの若い労働力を使い、自動化などにより効率化を進めていたので、日本でも似た感じにできるのではと思いました。
□今回の体験を通して学んだことは、１つ目は自分でどうにかするということ。２つ目は助け合うこと。３つ目はきりかえの大切さ。特にきりかえの大切さはどこに行っても使うことなので､これからも使っていきたいです。
□バイクの多さにはおどろきました。
□日本では見れないことを見れて、楽しく勉強ができて､応募してよかったと思いました。
□ベトナムに来る前の自分は、他人に話しかけたくても勇気が出ずに話しかけることができませんでしたが、今回のベトナムでの海外研修で勇気をもって話しかけることの大切さや楽しさを知りました。どこの国にいてもコミュニケーション力は人と人をつなぐ大切な力だと思います。今後は語学だけでなく、積極的に話していきたいと思いました。
□今回の研修を通じて、自分を大きく成長させることができた。
□初めての海外ということでとても緊張していたが、いざ終わりが近づくと名残惜しい。このメンバーで１週間ともに研修を行えることができ、とても幸運に思う。
□今回の研修により、海外への強い憧れを持つことができた｡今回のような海外研修には、積極的に参加したいと思う。みなさま、１週間おつかれ様でした。
□体調を崩す人が多かった。薬をもっと持っていけばよかった。
□少し人数が多い気もする。

９．結びに

第１９回海外研修の参加生徒を募集したところ、９地区の推薦を得て定員の２２名（男子１１、女子１１）の生徒が参加することになりました。また、引率は早川信一団長（東京都立科学技術高等学校長）を含め３名で実施しました。参加者はじめ、ご支援いただいた保護者・学校関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

昨年と同様に、ブログの活用で研修中の様子が情報共有できるようになり、参加者のご家族や学校関係者にとっては、リアルタイムで生徒の研修活動が確認できたことと思います。このブログは、引率の先生の奉仕的活動で実施しているもので、大変ありがたく思うところです。

本協会の海外研修は、第１回～１０回がオーストラリア、第１１回～１５回までがカナダ・アメリカで実施してきましたが、第１６回からは地理的に比較的近く、経済発展の著しい東南アジアに研修先を変更しました。第１９回も、前回に引き続きベトナム社会主義共和国を訪問しました。

夏休みがスタートすると同時に始まるこの研修で、暑い東南アジアを訪問することは海外研修の準備を含め、時間的にも肉体的にも負担が大きかったものと思われます。にもかかわらず、参加生徒の感想やアンケートを見ますと日・越の２つの企業訪問、ベトナム戦争の戦跡や世界自然遺産のハロン湾の見学、現地学生との交流など、日本国内では感じられない雰囲気や体験ができて、とても充実した研修であったことがよくわかります。東南アジア諸国には日本企業が数多く進出し、企業の５Ｓ（整理・ 整頓・ 清掃・ 清潔・ 躾）が徹底されています。特にベトナムは、歴史的にも日本とのつながりが古く、親日的な国で治安も安定しています。近年の目覚ましい経済発展は目を見張るものがあり、活気あふれるベトナムの雰囲気を肌で感じられたと思います。

この海外研修は、参加した生徒の皆さんにとって高校時代の多感な思春期の海外体験として貴重な機会であったと思います。それぞれの高校生活及びこれからの人生に役立つことを期待するとともに参加した皆さんの今後の活躍を心から祈念します。

（この報告書は、本協会のホームページにも掲載します）

国際化事業推進委員会委員

委員長	早川 信一（科学技術高校長）	事務局	石井 末勝（全工協会事務局長）
委　員	山本 康義（三郷工業技術高校長）		鈴木 賢二（全工協会事務局次長）
	土屋 徳郎（清水高校長）		渡邉　 隆（全工協会事務局次長）
	前畑 光男（荒川工業高校長）	引　率	早川 信一（科学技術高校長）
	居石 博幸（藤沢工科高校長）		小原　 豪（多摩工業高校）
			矢澤 正己（都立工芸高校）

共通事項

ハノイ工業職業訓練短期大学　　HIVC　　Hanoi Industrial Vocational College
ベトナム日本人材協力センター　　VJCC　　Vietnam-Japan Human Resources Cooperation Center
戦争証跡博物館
ホーチミン　人名はホー・チ・ミン、市名はホーチミン、またはホーチミン市

『英文フォントについて』
Times New Roman を 10.5 で使用
単語間のスペースは半角スペース
単語が行をまたぐときは、ハイフネーションを入れて単語の途中で改行

『日本語フォントについて』
MS 明朝を 10.5 サイズ

『数字フォントについて』
数字フォントは、英文フォントと同じも

『キャプションについて』
キャプションは **HGP 創英角ｺﾞｼｯｸ UB** を 10.5 サイズで、中央揃え

『写真について』
サイズは横幅 73 の中央揃え
縦長の写真は 50～60 の中央揃え

原則……明らかな間違いは校正するが、それ以外はそのままにする。